

HONDA

**BALLADE
SPORTS
CR-X**

取扱説明書

バラードスポーツCR-X

安全快適にお乗りいただくためにご使用前に必ずお読みください。

このたびはホンダ車をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。

安全快適にお乗りいただくため、必要な事項を本書に記載しましたので必ずお読みください。

文中の**注意**には特に注意していただきたいことが説明してあります。

本書のほかに「整備手帳」が添付してあります。ご満足いくサービスを受けていただくため本書と同様十分にお読みください。

お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのために本書をつけておいてください。

名 称	型 式	エンジン型式	排気量 (cc)	車 体 形 状	タイプ
ホンダ バラード スポーツ CR-X	E-AE	EV	1,342	2 ドア クーペ	1.3 1.3L
	E-AF	EW	1,488		1.5i
	E-AS	ZC	1,590		Si

なお、車両の仕様、その他変更により、本書の絵が実車と異なる場合がありますのでご了承ください。

お客様へのおすすめ（安全は人と車がつくるもの、公害防止、点検・整備等）

ご使用にあたって（安全のために、お車を大切にするために、いざという時のために等）

メータの見かた、使いかた（計器類、表示灯・警告灯）

スイッチの使いかた（エンジン スイッチ、ライト スイッチ等）

室内装備の使いかた、車体各部の開閉（シート ベルト、ラジオ、ドアの施錠・解錠等）

エンジンのかけかたと運転のしかた（エンジンのかけかた、変速レバーの操作等）

ヒータ・エアコンの使いかた

いざというときには（故障した場合、非常発炎筒、けん引について、タイヤ チェーン等）

運行前点検（後写鏡の点検、ブレーキ液量の点検、反射器、ナンバ プレートの点検等）

6 か月点検（ベルトのゆるみ、ブレーキのきき具合、タイヤの空気圧、冷却水の量等）

簡単な整備と手入れ（工具とジャッキ、ウォッシャ液の補給、積雪・寒冷時の取り扱い等）

サービス データ（点火プラグ、ベルトのたわみ量、ウォッシャ タンク容量、電球のワット数等）

主要装備一覧（タイプ別装備のちがい）

さくいん

お客様へのおすすめ

安全は人と車がつくるもの

お車を安全快適にご使用いただくために、次のことを守ってください。

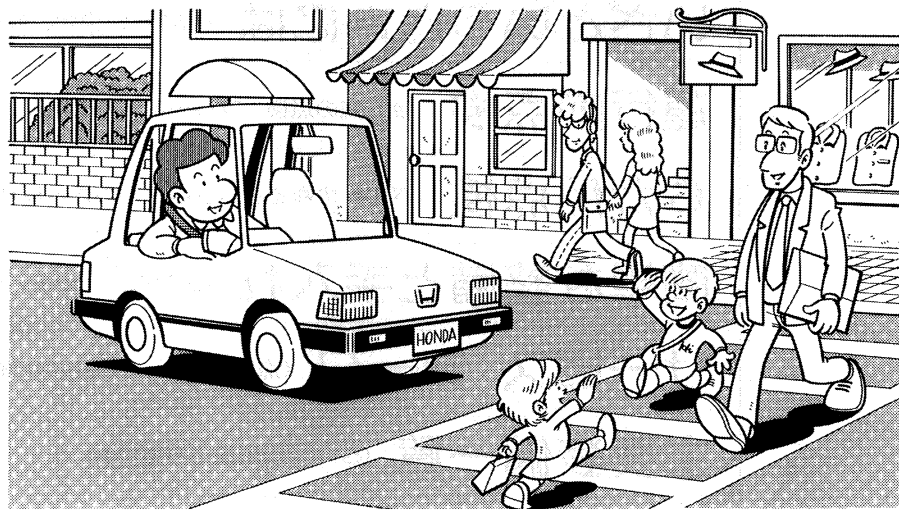
- この取扱説明書に従い、お車を正しく取り扱うこと。
- 交通法規を守ること。
- 点検、整備を行うこと。
- 正しい安全知識を身につけること。

正しい安全知識は別冊の“SAFETY DRIVING SAFETY POINTS”でも解説しておりますので、ぜひお読みください。

公害防止

大気汚染防止のために定期点検を行ってください。

長期間の使用の間には排気ガス中のCO（一酸化炭素）、HC（炭化水素）、NOx（窒素酸化物）などの値が変化することもありますので、必ず定期点検を行ってください。



点検、整備

安全、快適にご使用いただくため、ホンダ車の点検、整備方式に従って点検を実施してください。

点検には、

- 自動車を使用する人が、1日1回、運転する前に
行う運行前点検
- 自動車を使用する人が定期的に行う6か月、12か
月、24か月ごとの定期点検

これらの点検は“道路運送車両法の自動車点検基
準”に基づいております。必ず行ってください。

- 定期的に行う部品交換整備
- ホンダ指定の初回1か月目、6か月目の無料点検
があります。

詳細は別冊“整備手帳”をご覧ください。



純正部品

あなたのお車に最適なホンダ純正部品をご使用く
ださい。

純正部品は厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合
するように作られています。

ホンダ販売店で求められます。

純正部品には、つぎのマークがついています。



車にあった部品の使用

走行に関連する個所にはホンダ純正部品以外は使用
しないでください。

ラジオ、カー ステレオ、エアコンなどを装着する
場合でも、装着に際しては販売店またはホンダサー
ビスの各地区センターにご相談ください。

ご使用にあたって

安全のために.....	4
お車を大切にするために.....	6
いざという時のために.....	7
経済走行のために.....	7

ご使用の前に特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめてあります。
必ずお読みください。

安全のために

●シート ベルトは命綱

車を運転する前、運転者は必ず装着し、同乗者にも必ず装着させてください。

上腹部を避け、腰骨にぴったり装着してください。

●19ページ



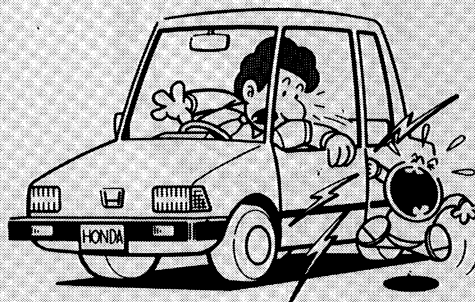
●お子さまと同乗のときは

●お子さまは不意の動作をし、運転の妨げになることがありますので後席に乗せてください。

●車を離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

いたずらによる車の発進、火災、また炎天下においては車内の高温などにより思わぬ事故を招くことがあります。

●ドアを閉めるときやシートを操作するときは、お子さまに十分注意してください。

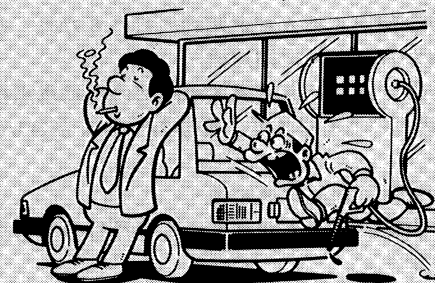


●火災を防ぐために

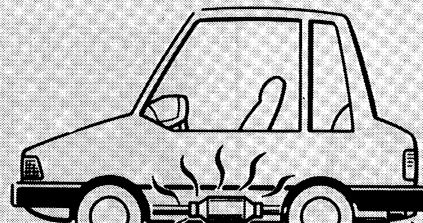
●燃料補給時は火気厳禁です

エンジンは必ず止めてください

火気厳禁!!



●走行後の排気管付近は、かなり高い温度なので枯草、紙、油など燃えやすいものの近くには駐車しないてください。



●車の後方に木材、油などの可燃物がある場所への駐車は避けてください。

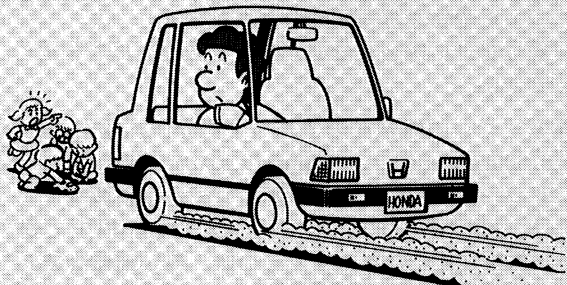
やむを得ず駐車する場合はエンジンを必ず止めてください。

●エンジンを始動する前に可燃物が排気管などに巻きついていないか点検してください。

●車内やトランク内にはガソリンなどの可燃物は乗せないでください。

●事故を防ぐために

- 後退するときは子供、障害物に注意してください。後写鏡では確認できない死角(車の直後など)があります。



- ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。
ハンドルの操作の妨げとなりたいへん危険です。
- 運転者の足もとに操作を妨げるようなものを置かないでください。
また、フロア マットがアクセル ペダルに引っかからないように注意してください。
- 走行中はエンジン スイッチを絶対に“LOCK”位置にしないでください。
キーが抜けるとハンドルが固定され非常に危険です。
- 走行中、エンジンを止めないでください。
ブレーキ倍力装置が作用しないのでブレーキのききが悪くなります。
- ブレーキのきき具合、ペダルの作動具合など、ブレーキ系統に異常を感じたら、ただちに点検を受けてください。
- 滑りやすい路面では急加速、急減速、急ブレーキを避けてください。
横滑りして方向性を失い危険です。

- 水たまり走行あるいは洗車後はブレーキのききが悪くなることがあります。ブレーキ ペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。ブレーキのききが悪い場合は前後の車に十分注意してブレーキ ペダルを軽く踏みながらしばらく低速で走行しブレーキのしめりを乾かしてください。

- 長い下り坂などでは走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落としてエンジン ブレーキを併用してください。

特に強力なエンジン ブレーキが必要なときは、**[1]**(ホンダマチック3AT)/**[2]**(ホンダマチック4AT)を使ってください。

ブレーキ ペダルを踏み続けるとブレーキ部の温度が上がりブレーキのききが悪くなる恐れがあります。

- 坂道に駐車するときは駐車ブレーキをかけ、変速レバーを平地や下り坂では**Ⓡ**(後退)に、上り坂では1速に、切り換えレバー(ホンダマチック 3AT/4AT)は常に**[D]**に入れてください。さらに輪止めをすると効果があります。

- 手荷物類はシートの高さを越えないように積んでください。

急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し危険です。

- 万一、冠水路を走行しなければならないときは、対向車の波を受けないように注意しながら、ゆっくりと波を立てないようにして、なるべく浅いところを選んで走行し、途中でエンジンを止めないよう気をつけてください。

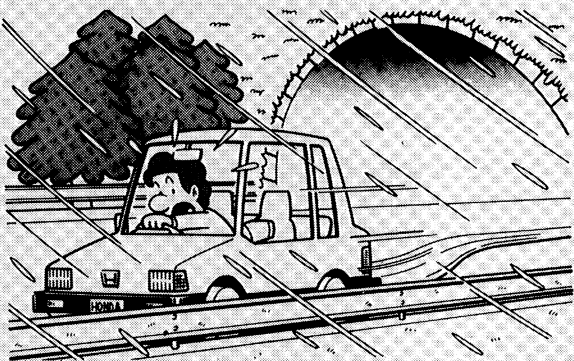
水中から出たあとは必ずブレーキのきき具合を確かめ、長く水中を走行した場合は点検を受けてください。

- 走行中にエンジンが停止すると運転操作に変化が生じます。次の方法で安全な場所に停車させてください。

1. ブレーキ倍力装置が作用しなくなり、ブレーキのききが悪くなります。ブレーキ ペダルを強く踏めば、ブレーキはききますので通常よりブレーキ ペダルを強く踏んでください。

2. パワー ステアリング装備車**●**はパワー装置が働かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。通常よりハンドルを強く操作してください。

- 風の強い日や雨天ではスピードを控えめにしましょう。横風を受け車が横に流されるようなときはハンドルをしっかり握りスピードを徐々に下げて進路を立て直しましょう。
トンネルの出口、橋や土手の上、山を削った切通しの部分では特に横風が発生しやすいのでご注意ください。



お車を大切にするために

●点検、整備について

- お出かけ前には車の点検を行いましょう。

●47ページ

- 6か月ごとの点検を必ず行ってください。

●55ページ

- エンジン、燃料噴射装置、電子制御装置および触媒装置などに悪影響を与えないため、ご自分でエンジン調整および部品、配管の取り外しを行わないでください。

ホンダ販売店で行ってください。

●触媒装置について

- 不適当な取り扱いをしたり、万一故障すると触媒温度が異常に高くなり焼損する恐れがありますので次のような取扱いはしないでください。

1. 走行中はエンジン スイッチを絶対に切らないでください。
2. エンジンを止めるときは、空ぶかし直後にエンジン スイッチを切らないでください。
3. 充電警告灯が点灯した状態で運転を続けしないでください。
4. 押しがけ、けん引によるエンジン始動をしないでください。

- 点火系、充電系、燃料系の不調は触媒装置に大きく影響しますので、エンジン不調を感じたときはすみやかに点検を受けてください。

●運転操作について

- 1000km走行するまでは、急発進、急加速は避け控え目な運転をしてください。

- 変速位置の選択は走行速度に応じて適切に行ってください。手動変速機車

●33ページ

ホンダマチック 3AT車 ●33ページ

ホンダマチック 4AT車 ●34ページ

- 歩道に乗り上げたり、車輪を縁石などにすり当たったりしないでください。

タイヤ、リム、ホイール カバー●が損傷することがあります。

●使用燃料について

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。

有鉛ガソリンや燃料添加剤を使用しますと触媒装置などに悪影響をあたえます。

また、粗悪ガソリンを使用しますとエンジンなどに悪影響をあたえます。

無鉛ガソリンを補給しましょう!!



●電子制御燃料噴射装置(PGM-FI)について

1. 5i, Siタイプ

- 無線装置を取り付けますと、誤作動を起こし、エンジンに異常をきたす恐れがあります。

取り付けに際しては必ずホンダ販売店にご相談ください。

- エンジンの回転をあやまって限界回転数(1.5i : 6,500rpm Si : 7,000rpm)以上の赤色表示部(レッドゾーン)で運転した場合エンジン保護装置により、1.5i : 約6,600rpm、Si : 約7,500rpm以上で燃料供給が停止されます。その時、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。限界回転数以上の赤色表示部に入らないように運転してください。

いざという時のために

いざという時のために本書の次の箇所をお読みください。

- 警告灯が点灯したときの処置 ④ 11ページ
- 非常点滅灯スイッチの使いかた ④ 16ページ
- 踏切で故障したとき ④ 41ページ
- 高速道路で故障したとき ④ 41ページ
- 故障時の連絡 ④ 41ページ
- 非常発災箇の使いかた ④ 42ページ
- けん引のしかた ④ 42ページ
- タイヤ チェンを装着するとき ④ 43ページ
- バッテリー上がりの処置 ④ 44ページ
- オーバーヒートしたときの処置 ④ 44ページ
- 電動サンルーフが作動しないときの処置 ④ 44ページ
- 電球が切れたとき ④ 45ページ
- 工具が必要なとき ④ 63ページ
- タイヤがパンクしたとき ④ 64ページ
- ライト類が点灯しないとき (ヒューズの交換) ④ 68ページ

経済走行のために

- 不必要な急加速、急減速などアクセル ペダルをバタつかせるような運転をしないでください。
- 高速道路でも不必要な高速走行は避け、80km/h程度で走行しましょう。
- 変速位置の選択は走行速度に応じて適切に行ってください。**手 動 変 速 機 車** ④33ページ
ホンダマチック 3AT車 ④33ページ
ホンダマチック 4AT車 ④34ページ
- 変速レバー操作はクラッチ ペダルをいっぱいに踏み込んで行い、クラッチ ペダルの足のせ運転、半クラッチの連続使用をしないでください。
- 長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。
- 車間距離は十分取り、不必要な急ブレーキをかけないでください。

1950年10月

10月1日 星期日 晴 10月2日 星期一 晴 10月3日 星期二 晴 10月4日 星期三 晴 10月5日 星期四 晴 10月6日 星期五 晴 10月7日 星期六 晴 10月8日 星期日 晴 10月9日 星期一 晴 10月10日 星期二 晴 10月11日 星期三 晴 10月12日 星期四 晴 10月13日 星期五 晴 10月14日 星期六 晴 10月15日 星期日 晴 10月16日 星期一 晴 10月17日 星期二 晴 10月18日 星期三 晴 10月19日 星期四 晴 10月20日 星期五 晴 10月21日 星期六 晴 10月22日 星期日 晴 10月23日 星期一 晴 10月24日 星期二 晴 10月25日 星期三 晴 10月26日 星期四 晴 10月27日 星期五 晴 10月28日 星期六 晴 10月29日 星期日 晴 10月30日 星期一 晴 10月31日 星期二 晴

1950年11月

11月1日 星期三 晴 11月2日 星期四 晴 11月3日 星期五 晴 11月4日 星期六 晴 11月5日 星期日 晴 11月6日 星期一 晴 11月7日 星期二 晴 11月8日 星期三 晴 11月9日 星期四 晴 11月10日 星期五 晴 11月11日 星期六 晴 11月12日 星期日 晴 11月13日 星期一 晴 11月14日 星期二 晴 11月15日 星期三 晴 11月16日 星期四 晴 11月17日 星期五 晴 11月18日 星期六 晴 11月19日 星期日 晴 11月20日 星期一 晴 11月21日 星期二 晴 11月22日 星期三 晴 11月23日 星期四 晴 11月24日 星期五 晴 11月25日 星期六 晴 11月26日 星期日 晴 11月27日 星期一 晴 11月28日 星期二 晴 11月29日 星期三 晴 11月30日 星期四 晴

メーターの見かた、使いかた

●計器盤各部の名称

ヒータ・エアコン操作盤
●37ページ

時計
●21ページ

グローブボックス
●24ページ

灰皿
●23ページ

ラジオ
●22ページ

シガレットライター
●23ページ

計器類
●10ページ

後面ガラス曇り取りスイッチ
●16ページ

サンルーフ開閉スイッチ
●26ページ

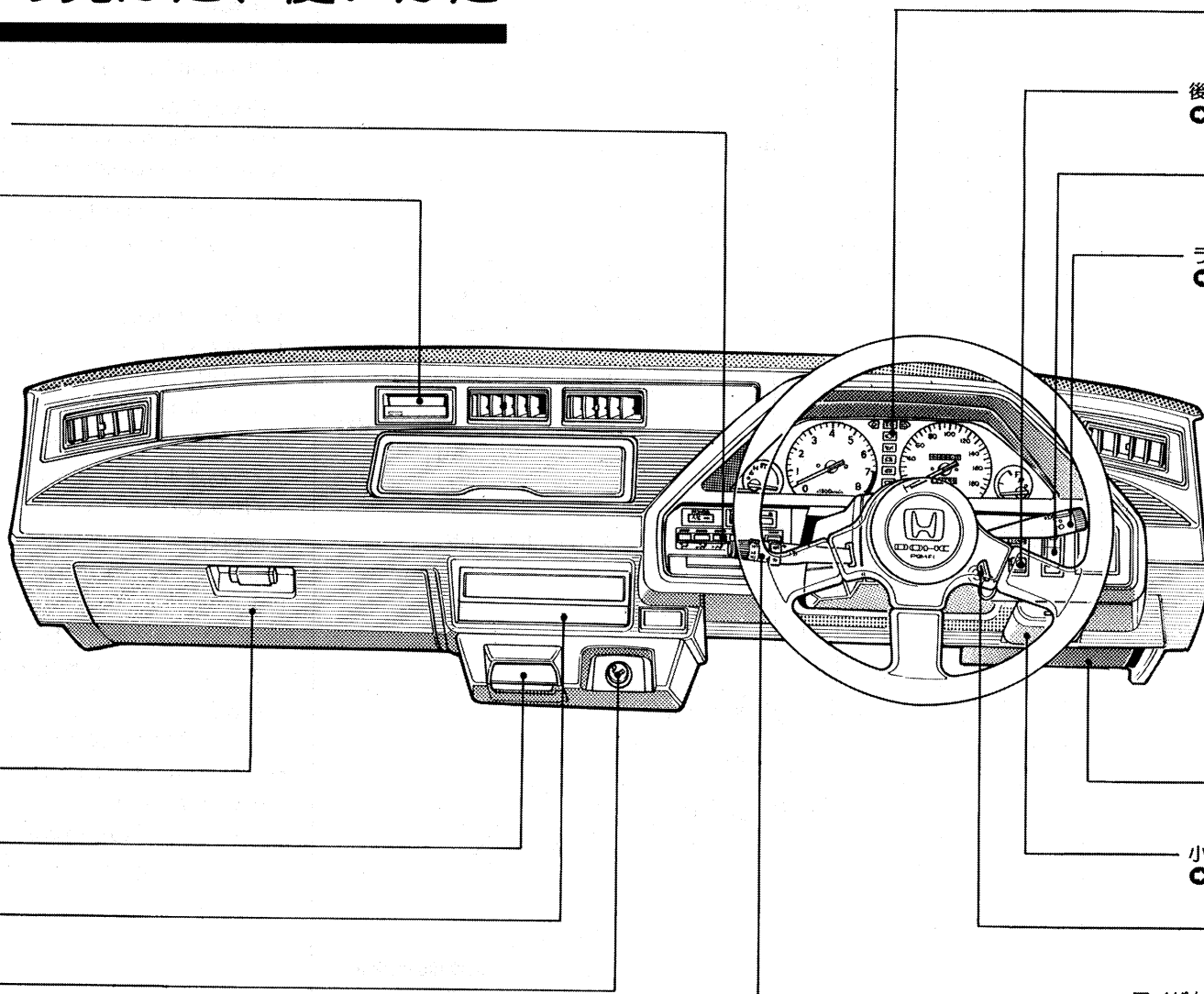
ライト/方向指示器スイッチ
●13,14ページ

ヒューズボックス
●68ページ

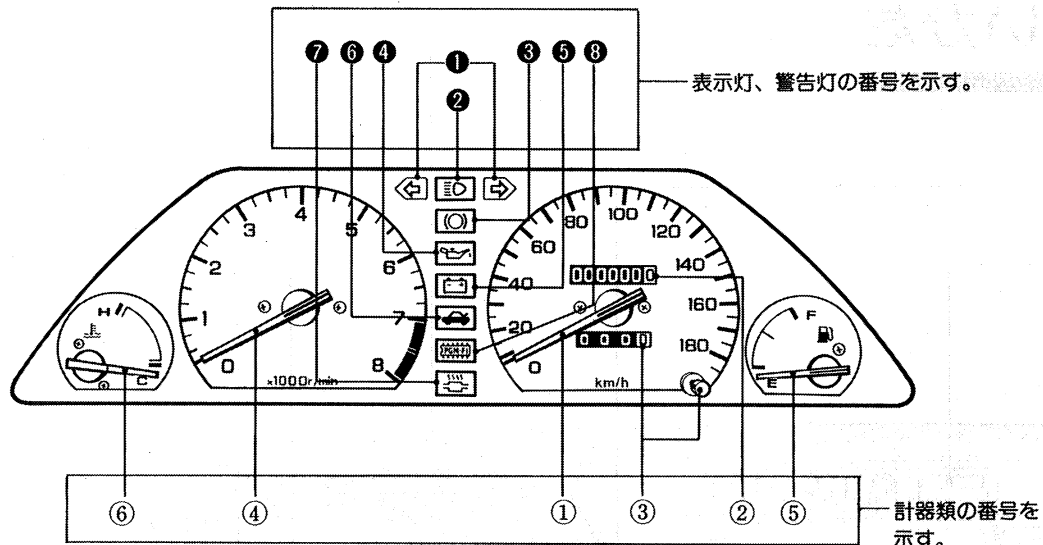
小銭入れ(コインボックス)
●23ページ

エンジンスイッチ
●13ページ

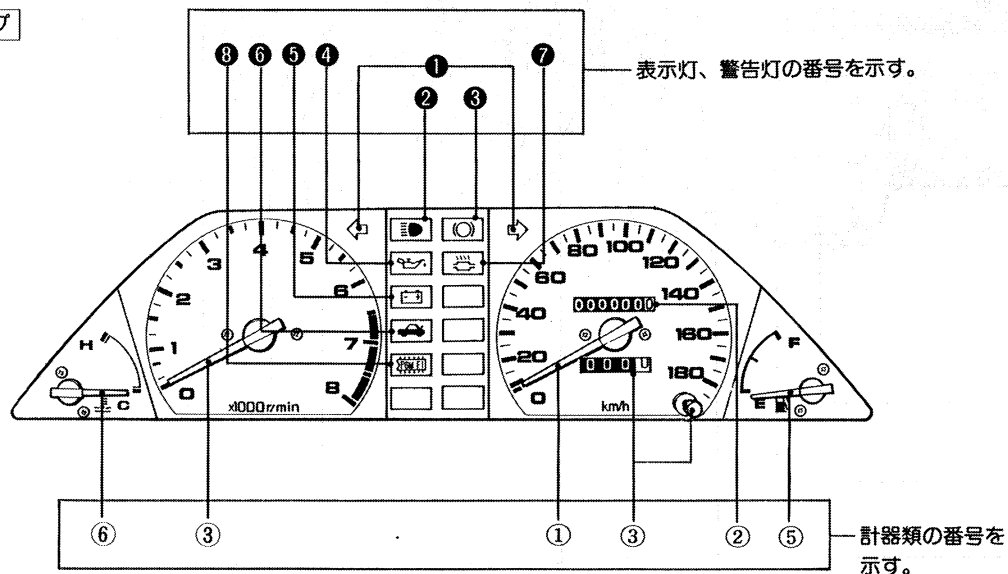
ワイ/ワ/ウオツシャ液噴射スイッチ
●14ページ



Siタイプ



Siを除くタイプ



計器類

①速度計

走行速度をkm/hで示します。
約100km/h以上になるとブザーが鳴ります。

②積算距離計

走行した累計をkmで示します。
右端の数字は100mの単位です。

③区間距離計 (トリップメータ)

区間距離を知りたいときノブを押して“0”に戻します。

④エンジン回転計

1分間あたりのエンジン回転数を示します。
●限界回転数(Siタイプ: 7,000rpm、Siを除くタイプ: 6,500rpm)以上の赤色表示部(レッドゾーン)に入らないように運転してください。
特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。

⑤燃料計

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料の残量を示します。
●“E”に近づいたら早目に補給してください。
使用燃料について ●6ページ

⑥水温計

エンジン冷却水の温度を示します。
●万一、赤いマークに入った場合はオーバーヒートの恐れがあります。ただちに安全な場所に停めてください。その後の処置方法は
オーバーヒートした場合 ●44ページ

表示灯、警告灯

① 方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使用したときは、表示灯の点滅が異常になります。

② 前照灯の上向き（ハイ ビーム）表示灯

前照灯が上向きのときに点灯します。

③ ブレーキ警告灯

駐車ブレーキがかかっているときおよびブレーキ液量が著しく減少しているときに点灯します。

エンジン スイッチが“ON”のとき駐車ブレーキレバーを引くと点灯し、戻すと消灯します。

- 万一、駐車ブレーキ レバーを引いても点灯しないとき、戻しても消灯しないとき、走行中点灯したときは、ただちに点検を受けてください。

ブレーキ液量の点検 ●50ページ

④ 油圧警告灯

エンジンの潤滑系が異常のときに点灯します。エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。

- 万一、運転中に点灯した場合は、安全な場所に停車しエンジンを止め、エンジン オイル量を点検してください。

エンジン オイルが減っていないのに点灯しているときは、点検を受けてください。

エンジン オイル量の点検 ●51ページ

⑤ 充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。

- 万一、運転中に点灯した場合はただちに点検を受けてください。

発電機（ファン）ベルトの点検 ●51ページ

⑥ 後部ドア（テールゲート）開閉警告灯

後部ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

- 後部ドアを完全に閉めてください。

⑦ 排気温警告灯

触媒装置の温度が異常に高いときに点灯します。エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。

- エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しない場合は、点検を受けてください。

充電警告灯が点灯すると同時に排気温警告灯も点灯します。（この場合は触媒装置の異常を知らせているものではありません。）

＜走行中点灯した場合＞

消灯するまで半分程度の速度に落とし、急加速、急減速などの無理な運転をしないでください。消灯したら、元のように走行できます。

速度を落としても消灯しない場合は、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車しエンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

＜停車中点灯した場合＞

エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

冷えた後、エンジンを始動し、消灯していれば通常の走行が可能です。

- 消灯しないときやふたたび点灯するときはそのまま使用しないで点検を受けてください。

触媒装置について ●6ページ

⑧ 電子制御燃料噴射装置(PGM-FI) 警告灯

1.5i, Siタイプ

燃料噴射装置が異常のときに点灯します。

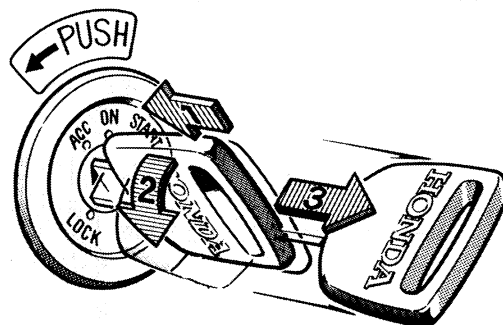
エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯すれば正常です。

- 万一、運転中に警告灯が点灯した場合は、高速走行を避けて、必ず点検を受けてください。

スイッチの使いかた

エンジン スイッチ	13
ライト スイッチ	13
方向指示器スイッチ	14
ワイパ/ウォッシュ液噴射スイッチ	14
後面ガラス曇り取りスイッチ	16
駐車灯スイッチ	16
非常点滅灯スイッチ	16

エンジン スイッチ



“LOCK”……キーの抜き差しをする位置です。ハンドルの固定は“ACC”の位置でキーを押し込んで“LOCK”位置まで回してキーを抜けば固定されます。

- キーは確実に差し込んで操作してください。
- “LOCK”の位置から“ACC”の位置にキーが軽回らない場合は、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

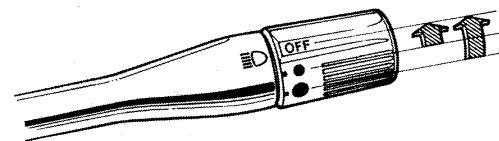
“ACC”……エンジンを止めてラジオを開ける位置です。

“ON”……エンジンがかかっているときの位置です。

- エンジンを止めた状態で“ON”の位置にし、長時間放置しないでください。
バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。

“START”……エンジン始動位置です。
始動したら、キーから手を離してください。自動的に“ON”の位置に戻ります。

ライト スイッチ



●ライトの点灯、消灯

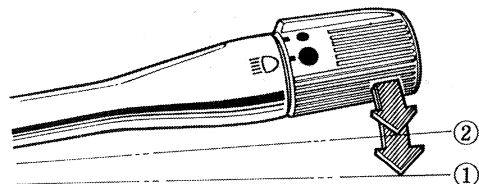
エンジン スイッチの位置に関係なくつぎのように点灯、消灯します。

ライト名 スイッチ 位置	ライト名	
	前照灯	車幅灯・尾灯・番号灯 計器類照明灯
OFF	消灯	消 灯
●	消灯	点 灯
●●	点灯	点 灯

●ライト消し忘れ警告ブザー

万一、ライトを消し忘れたままで車を離れようとしたとき（運転席ドアを開けたとき）、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。

- エンジン スイッチが“ON”の位置のときはブザーは鳴りません。



●前照灯の上向き(ハイ ビーム)と下向き(ロー ビーム)の切り換え

レバーを①の位置まで引くと上向きと下向きの切り換えができます。遠くまで照らしたいとき上向きにします。表示灯(●11ページ)が点灯して上向きであることを知らせます。

●対向車のあるとき、都市内走行など上向きが不適切なときは下向きにします。

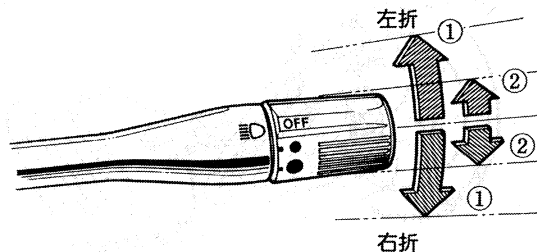
●追越合図

レバーを軽く②の位置まで引いたり離したりすると、前照灯が点滅します。

先行車に合図を送るときに使用します。

●前照灯が上向き(ハイ ビーム)のときは作動しません。

方向指示器スイッチ



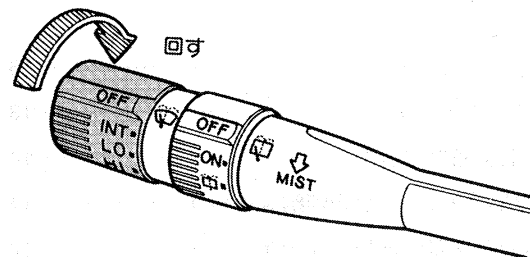
通常は①の位置で使用します。

この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。

車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使用します。

ワイパ/ウォッシャ液噴射スイッチ

●前部

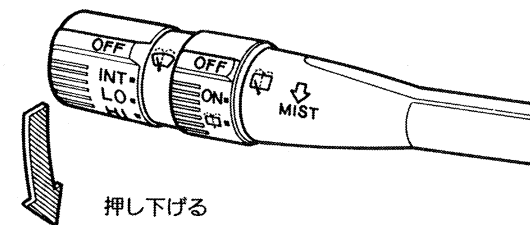


“OFF”……………停止

“INT” (間欠)……………雨量の少ないとき
約5秒毎に1回作動します。

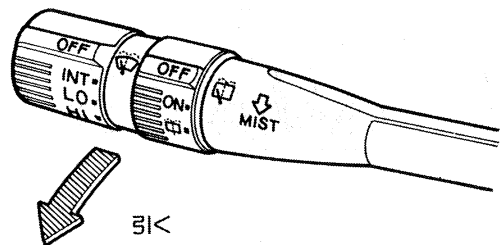
“LO” (低速)……………普通雨量のとき

“HI” (高速)……………雨量の多いとき



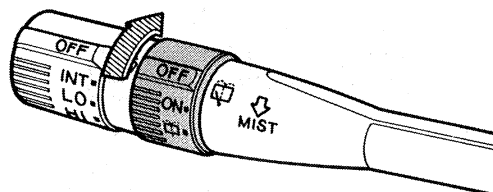
“* MIST” (ミスト)……………レバーを押し下げている間、HI (高速) で作動します。

* MIST (ミスト)とは英語で“もや、霧”という意味です。



前面ガラスが汚れて見にくいとき、レバーを手前に引けばウォッシャ液が噴射します。

●後部



“OFF” 停止

“ON” ワイバが作動します。

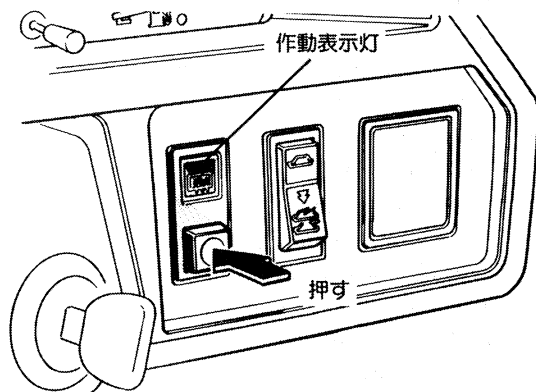
“” スイッチを回している間、ウォッシャ液が噴射し、ワイバが作動します。

- ワイバを止めるときは、エンジン スイッチが“ON”のままワイバ スイッチを“OFF”にしてください。ワイバを正しい位置で止めるためです。
 - 空ぶきはガラス面に傷をつけたり、ワイバをいためたりします。ウォッシャ液を噴射してください。
 - ウォッシャ液が出ないときはスイッチを切ってください。ウォッシャ液が空のままで作動させるとポンプの故障の原因となります。
 - 寒冷時、ブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがありますのでヒータで前面ガラスを暖めてください。●38ページ
- 凍りついたまま作動させるとワイバの故障の原因となります。



寒冷時、ウォッシャ液を噴射するときは先にヒータを使用して前面ガラスを暖めてください。吹きつけられた液が凍結し視界をさまたげるのを防ぐためです。

後面ガラス曇り取りスイッチ



スイッチを押すと同時に作動表示灯が点灯し、後面ガラスが暖められ曇りが取れます。

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたらスイッチを切ってください。

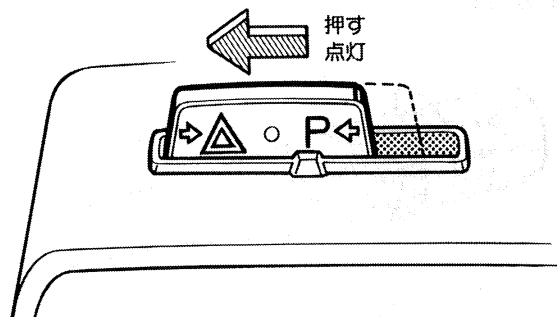
エンジンの回転が低いとき長時間使用しないでください。

- バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

- ガラスの室内側に電熱線が装着されています。清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。

電熱線は傷つき易いので手荷物などで傷をつけないようにしてください。

駐車灯スイッチ

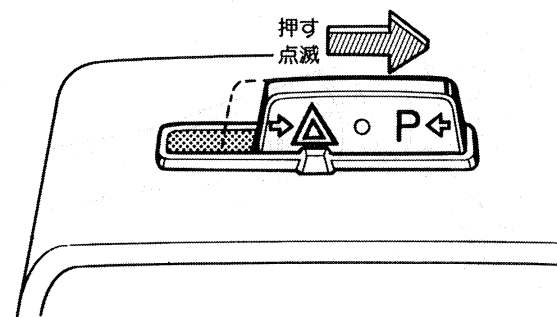


スイッチを左へ押すと前後の駐車灯が点灯します。夜間、路上駐車するときに使用します。

- 短時間の駐車にご使用ください。

完全充電の新しいバッテリーでも約8時間以上使用するとバッテリーの容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

非常点滅灯スイッチ



スイッチを右へ押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。

故障でやむを得ず路上駐車するときに使用します。駐車灯スイッチと兼用です。

- 非常時にのみご使用ください。

完全充電の新しいバッテリーでも約2時間以上使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

注意

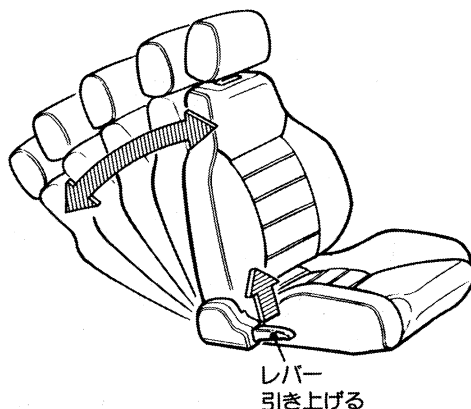
非常点滅灯を使用した後は確実にスイッチを戻してください。
確実に戻さないと方向指示器は作動しません。

室内装備の使いかた、 車体各部の開閉

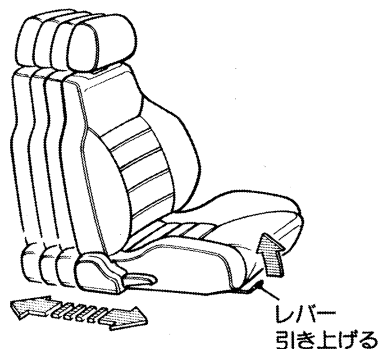
前席シートの操作	17
後席シートの操作	18
シート ベルト	19
サンバイザー	20
後写鏡	21
時計	21
ラジオ	22
シガレット ライタ	23
灰 皿	23
小銭入れ(コイン ボックス)	23
小物入れ	24
ドアの施錠、解錠	24
室内灯	25
後部ドア(テールゲート)	25
後部ドア照明灯	26
サンルーフ	26
ボンネット	28
燃料補給口	28

前席シートの操作

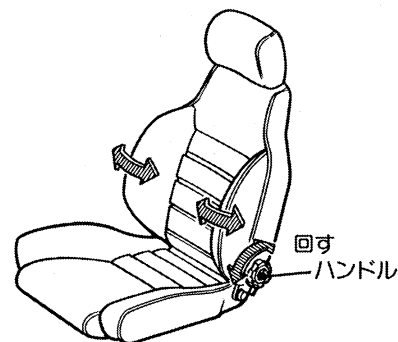
● 背もたれの調節



● シート位置の調節



● 両側クッションの調節(サイド サポート) ㊦

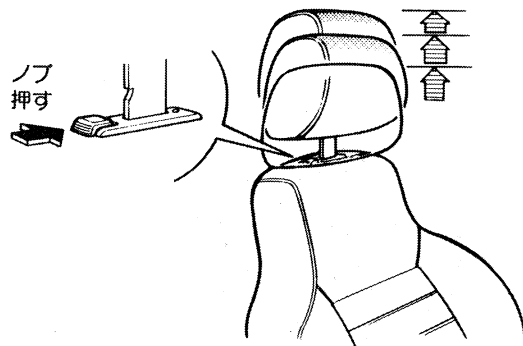


ハンドルを回すと背もたれ両側クッションが、内側または外側に移動します。

注意

- シートの調節は走行する前に行ってください。
- 走行中はシートが急に動いて危険です。
- シートと背もたれ調節後は固定されていることを必ず確認してください。

●ヘッド レストの高さ調節



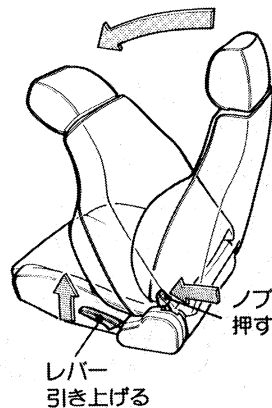
3段階に調節できます。ヘッド レストを持ち上げると高くなります。低くするときはノブを押しながらヘッド レストを下げます。

●運転する前に耳とヘッド レストの中心が同じ高さになるように調節してください。

注意

- ヘッド レストを外した状態で運転しないでください。
万一の場合、危険防止の役目を果たしません。
- 固定できる高さを越えて絶対に使用しないでください。
外れる恐れがあり、たいへん危険です。

●後席への乗り降り

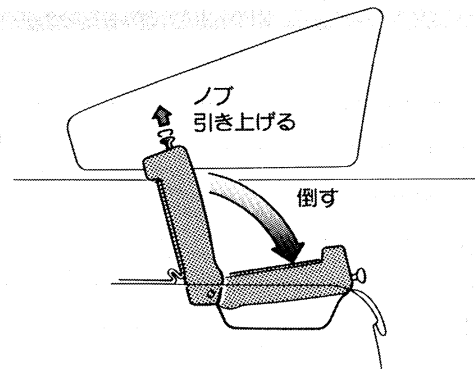


背もたれの調節レバーを引き上げると背もたれが倒れます。後席からは助手席のノブを前に押せば背もたれが倒れます。

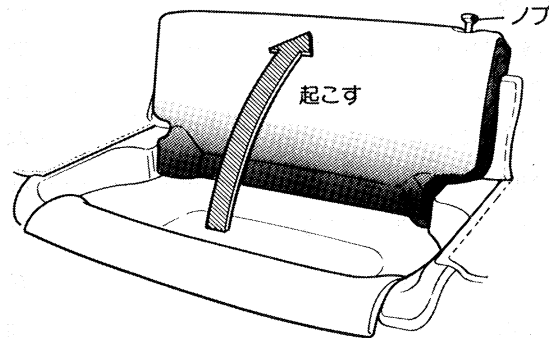
後席シートの操作

●背もたれの前倒し

後席の背もたれを前方へ倒すことができます。



ノブを引き上げ、背もたれを前方へ倒します。



背もたれを起こし、うしろへ押しつけると自動的に固定されます。

注意

背もたれを起こしたときは、固定されていることを必ず確認してください。

シート ベルト

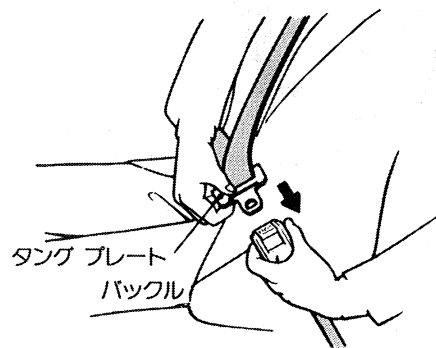
シート ベルトは車を運転する前、運転者は必ず装着し、同乗者にも必ず装着させてください。

●前席ベルト

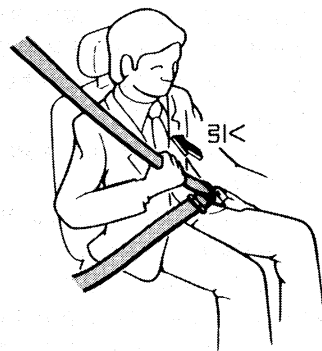
シートを正しい運転姿勢位置にし、上体を起こしてすわります。



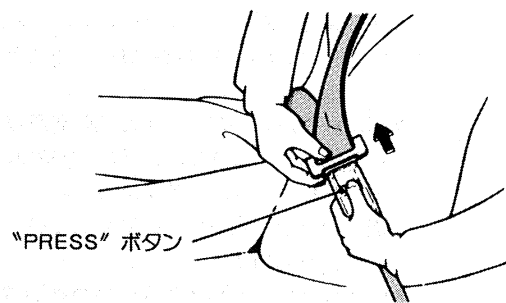
タング プレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



ベルトにねじれがないようにし、タング プレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

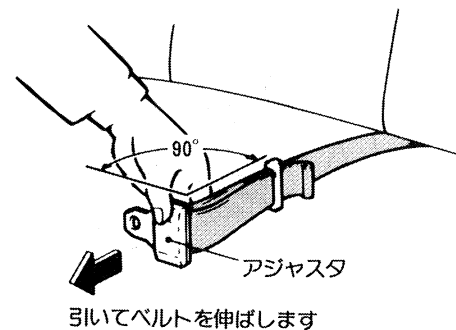


シートの調節レバーなどにベルトが引っかかっていないことを確認します。
腰骨にかかるようにベルトを図のように引き、腰部に密着させます。



外すときはバックルの“PRESS” ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますのでひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

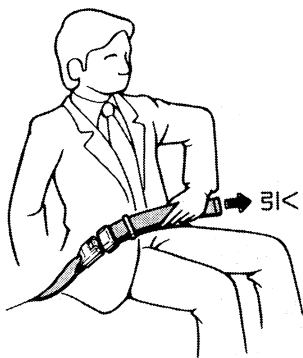
●後席ベルト



アジャスタを図のようにし、ベルトを引いて必要な長さより少し長めにします。

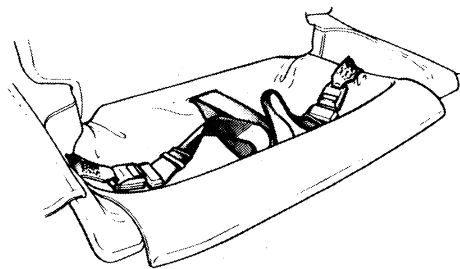


ベルトにねじれがないようにし、タング プレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



腰骨にかかるようにベルトを図のように引き、腰部に密着させます。

外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。

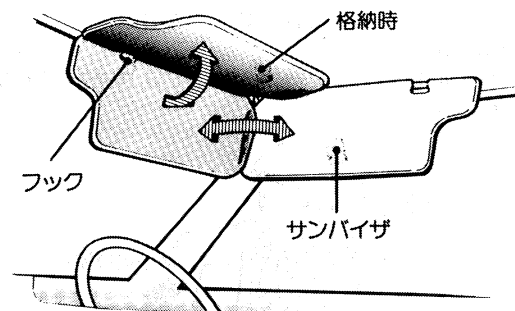


外したベルトはタング プレートとバックルを結合します。

注意

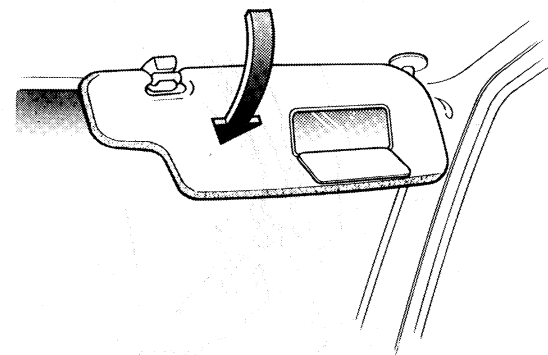
- ベルト締付力を丈夫な腰骨の部分に拡散するため、ベルトは上腹部を避け腰骨にびったり装着してください。
- ベルトは一人用です。
二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- 一人で座ることができない乳幼児の場合は装備されているシートベルトを直接使用しないでください。
- シートベルトを装着した状態でベルトがあご、のどに当たるお子さまなどは危険ですから後席に乗り、後席ベルトを装着してください。
- ねじれた状態で使用するとベルトの機能が低下することがあり、危険です。
ねじれないように使用してください。
- バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
十分な機能をはたさなくなることがあります。
- ベルトが汚れた場合は中性洗剤を溶かしたぬるま湯にひたした布で拭き取り、日陰干しにし乾かしてください。
- 漂白や染色は絶対しないでください。
ベルトを弱めます。
- 装着した状態で万一事故に合った場合はベルト一式を交換してください。

サンバイザ



サンバイザを横に移動するときは、フックを外して行います。

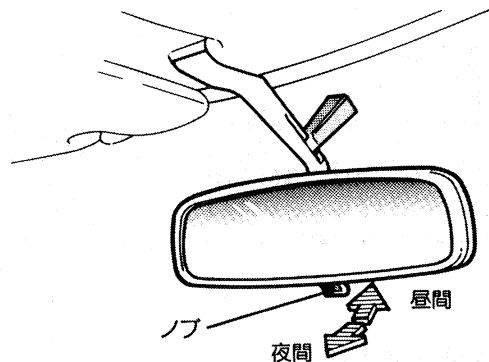
●化粧鏡（バニティ ミラー）●



サンバイザの裏側に鏡があります。お化粧のときなどに便利です。

後 写 鏡

●防眩式室内後写鏡

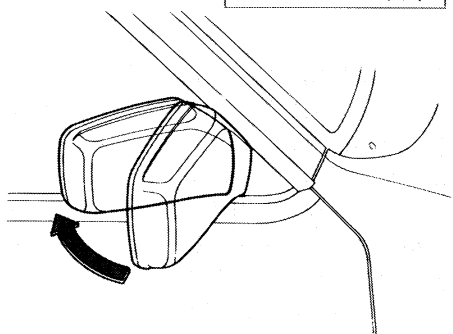


夜間走行時に後続車のライトがまぶしいときにノブを夜間の位置に切り換えるとライトの反射が弱くなります。

- 視野の調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

●可倒保持式ドア ミラー

ドア ミラー装備車



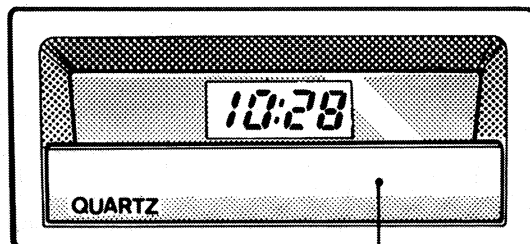
ミラーを後方へ折りたたむことができます。狭い所へ駐車するときなどに便利です。

走行するときは必ず元に戻してください。

- ミラーを元に戻したときは、ミラーの角度が変化していることがあるので、再度調整してください。

時 計

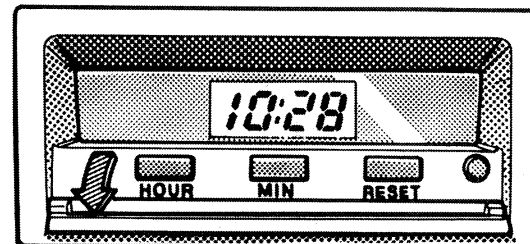
●表示のしかた



操作ボタン カバー

エンジン スイッチが“ON”位置で表示されます。
エンジン スイッチが“LOCK”または“ACC”の位置では、操作ボタン カバーを押している間表示されません。

●表示の合わせかた



操作ボタン カバーを開け、エンジン スイッチを“ON”の位置にします。

「時」の調整

“HOUR” ボタンを押している間「時」の早送りができます。午前と午後の表示も合わせてください。

「分」の調整

“MIN” ボタンを押している間、「分」の早送りができます。

「時報合わせ」

時報と同時に“RESET” ボタンを押すと時報に合わせることができます。

(例) 1 : 01 ~ 1 : 29 の場合は 1 : 00 に

1 : 30 ~ 1 : 59 の場合は 2 : 00 になります。

- 「秒」表示はありませんが、“RESET” ボタンを押した場合は 0 秒から作動を始めます。

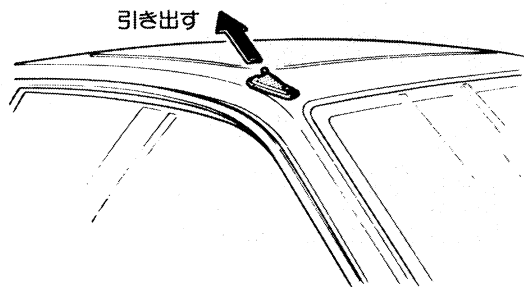
また、“MIN” ボタンを押すのを止めたときより、0 秒から作動を始めます。

- バッテリーの取り外し、ヒューズ切れなどで電源が切れたとき、再び電源が接続されると“1 : 00”の表示で点滅します。

正しい時刻に合わせてください。

ラ ジ オ

●アンテナ

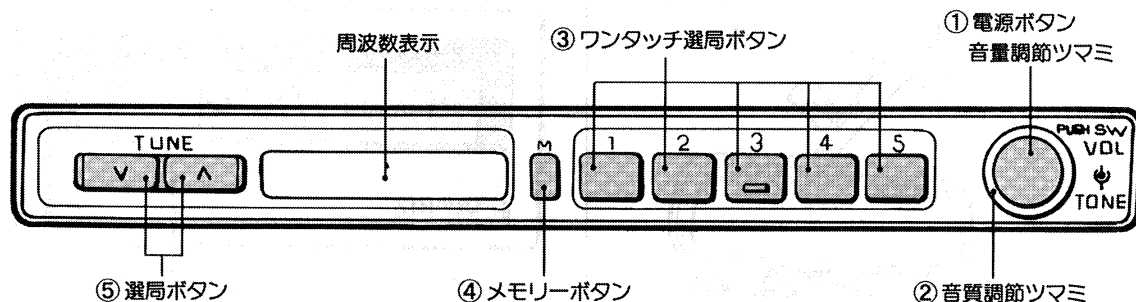


ラジオを聞くときはアンテナをいっぱいまで伸ばします。

●屋根の低い場所、洗車場などでは必ずアンテナを収納してください。

アンテナを曲げたりすると伸縮性を損います。

●ラジオの使いかた



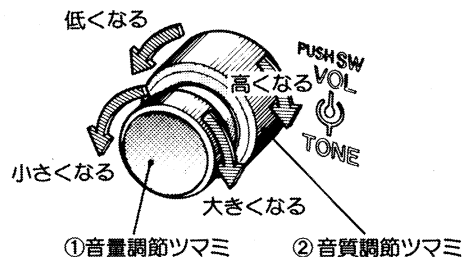
●電源

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”位置のとき、①のボタンを押せば電源が入り、もう一度押せば切れます。

●選局操作

③のボタンを押すと、あらかじめセットされた放送が受信できます。

●音量、音質調節



●運転中の音量は車外の音が聞こえる程度でご使用ください。

●選局ボタンの操作

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局以外を聞く場合に操作します。

⑤のボタンを1秒以上押すと自動選局し、放送を受信すると止まります。

手動選局するときは⑤のボタンに軽く触れます。触れるたびに受信周波数が少しずつ変わり、選局できます。

●ワンタッチ選局の記憶操作

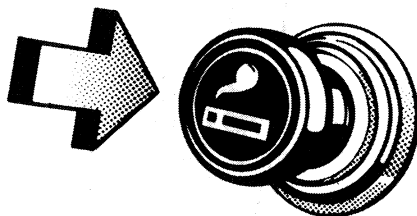
⑤のボタンで選局します。選局したあと④のボタンを押してから③のいずれかのボタンを押します。同じ要領で全てのボタンに記憶できます。

●④のボタンを押すと周波数表示の右上に“M”の表示が出ます。この表示が点灯している数秒の間に③のボタンを押してください。“M”の表示が消灯しているときには記憶できません。

●一度電源が切れた場合（バッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど）、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

シガレット ライタ

押して手を離す



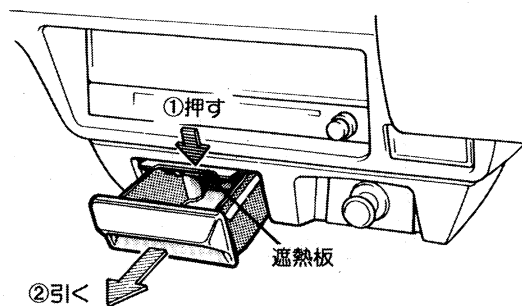
ライタは自動的に戻りますので押し込んだら手を離し戻るまで待ちます。

- 使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。

注意

- 押さえつけたままにしないでください。ライタが過熱して非常に危険です。
- 他車のライタを使用しないでください。戻らなくなることがあります。
- 30秒以上たっても戻らないときは故障の恐れがありますので手で引き出してください。
- ライタのさし込み口からはホンダ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

灰 皿

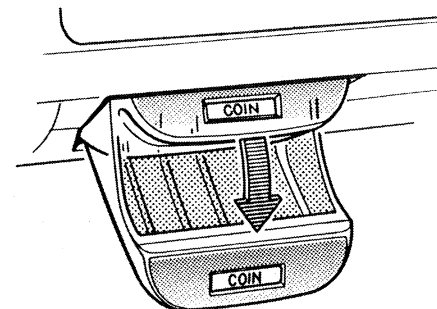


清掃するときは遮熱板を下に押さえながら取り外します。

注意

- 使用後は、必ず閉めてください。
- タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に入れてください。
- 吸いぐらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
タバコの火が燃え広がる恐れがあります。

小銭入れ(コイン ボックス)



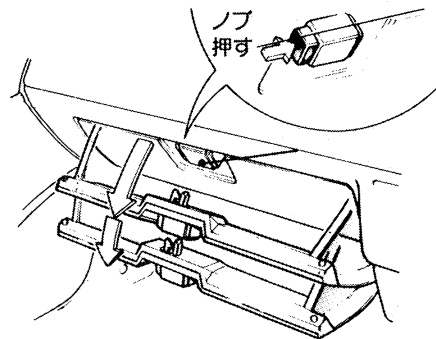
ふたを下げると開きます。小銭などを入れておくとき有料道路の料金所などで便利です。

注意

走行中は、小銭入れのふたを必ず閉めておいてください。
運転操作の妨げとなります。

小物入れ

●グローブ ボックス



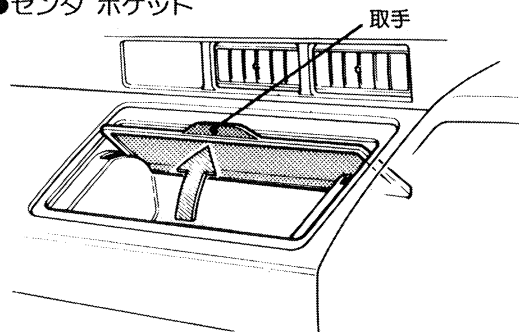
取手のノブを押すと開きます。ふたを軽く押し下げるとさらに開きます。

走行中は、グローブ ボックスのふたを必ず閉めておいてください。

注意

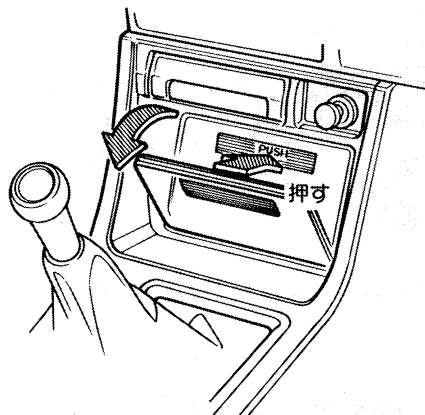
万一の場合、グローブ ボックスのふたおよび内部の小物が思わぬ危険物となります。

●センタ ポケット



取手を前に押しとふたが開きます。

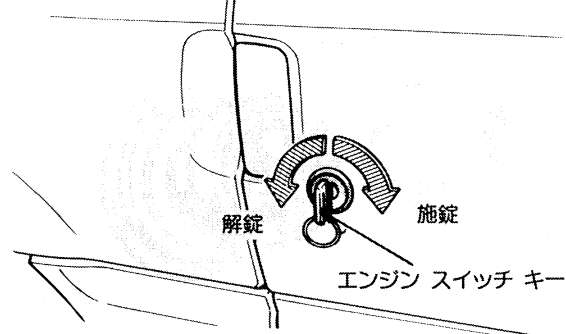
●センタ コンソール ●



カセット テープなどを入れておくのに便利です。

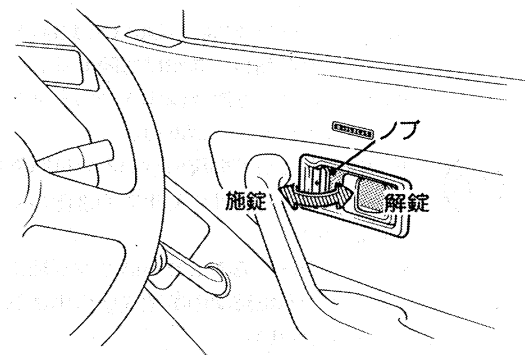
ドアの施錠、解錠

●車外から行う場合

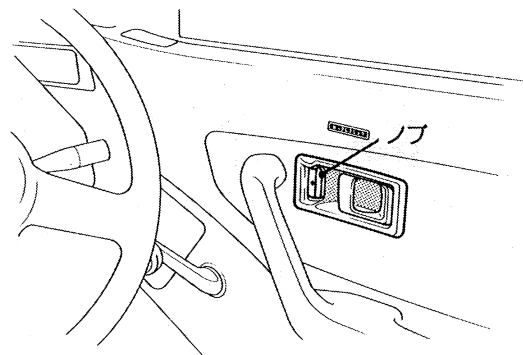
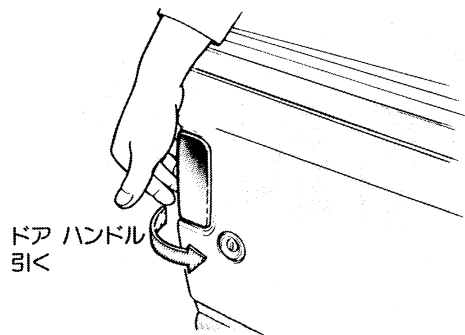


エンジン スイッチ キーを確実に差し込んで回します。

●車内から行う場合



●車外からキーを使用しないで行う場合



＜運転席のドア＞

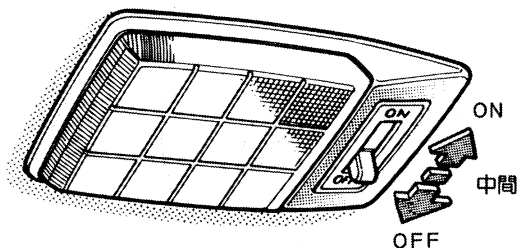
ドア ハンドルを引いたまま車内のノブを施錠の方向に動かして、ドアを閉めれば施錠できます。

＜その他のドア＞

ノブを施錠の方向に動かして閉めるだけで施錠できます。

●キーを車内に置き忘れないようにしてください。

室内灯



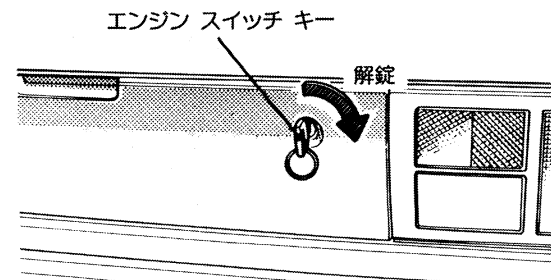
“ON” …… ドアの開閉に関係なく点灯します。

中間 …… ドアを開いたときのみ点灯します。

“OFF” …… ドアの開閉に関係なく消灯します。

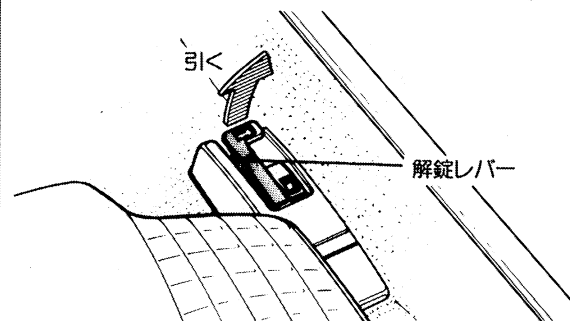
後部ドア(テールゲート)

●車外からの解錠



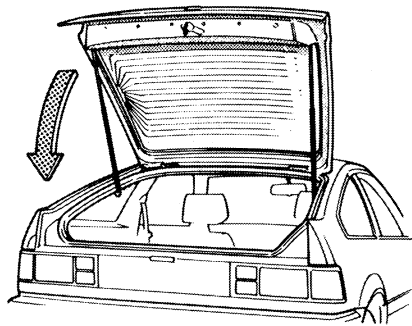
エンジン スイッチ キーを確実に差し込んで回します。

●車内からの解錠(テールゲート オープナ) ●



運転席の右下にあるレバーを引き上げます。

●施錠

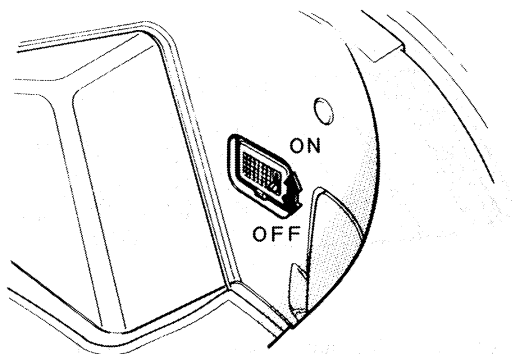


静かに下げ、上から手で押さえつければ施錠できます。

注意

- 走行中は後部ドア(テールゲート)を必ず施錠してください。
車内に排気ガスが侵入するのを防ぐためです。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。

後部ドア照明灯



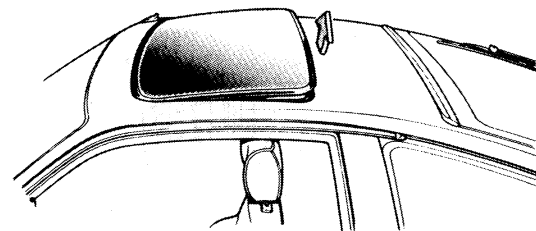
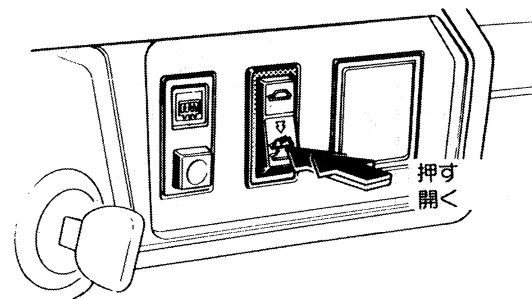
“ON”……後部ドアを開けたときのみ点灯します。

“OFF”……後部ドアの開閉に関係なく消灯します。

サンルーフ

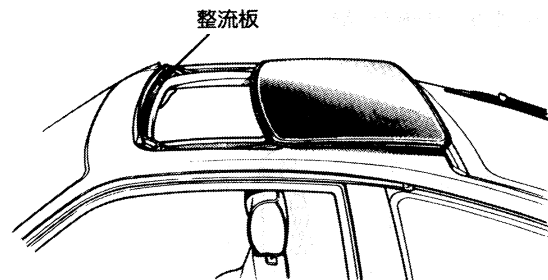
エンジン スイッチが“ON”位置のとき作動します。

●開けかた



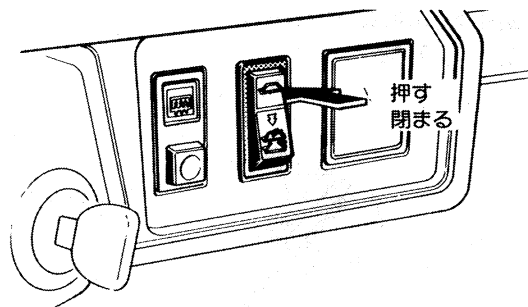
スイッチを軽く押すと、サンルーフ後部が上がります。車内の空気を換気するのに効果があります。さらにスイッチを押し込むと、サンルーフが開きます。スイッチを押している間、サンルーフが作動します。

- ルーフに水滴などがついているときは、サンルーフの後部を上げた状態(スイッチを軽く一段押した状態)でしばらくまってから開けてください。



サンルーフを開けると、室内への風の巻き込みを防ぐ整流板(ディフレクタ)が自動的に上がります。

●閉めかた



スイッチを押している間、サンルーフが作動します。

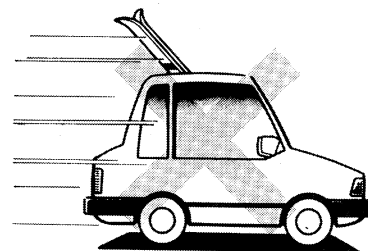
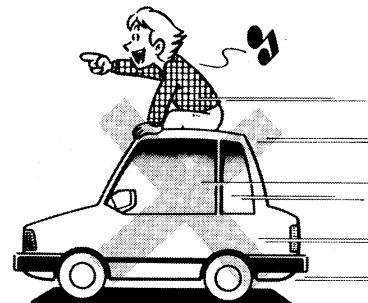
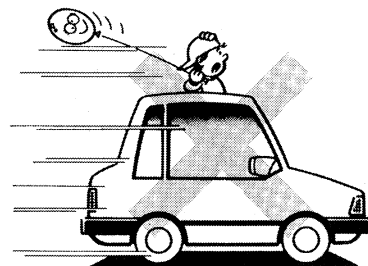
- 万一、電動サンルーフが閉まらなくなった場合は手動で閉めてください。手動操作のしかたは

簡単な応急処置 ④44ページ

- サンルーフが全開または全閉後は作動スイッチを押し続けしないでください。故障の原因となります。
- サンルーフやルーフ開口部の縁に腰をかけたり荷物を乗せるなどの大きな力を加えないでください。サンルーフが破損する恐れがあります。
- 車を離れるとき、サンルーフが完全に閉まっていることを確かめてください。
- 降雨後または洗車後はルーフ上の水を除去してから開けてください。室内に水が入る恐れがあります。
- 降雪時、厳寒時などにおいて凍結することがあります。このような場合は作動させないでください。

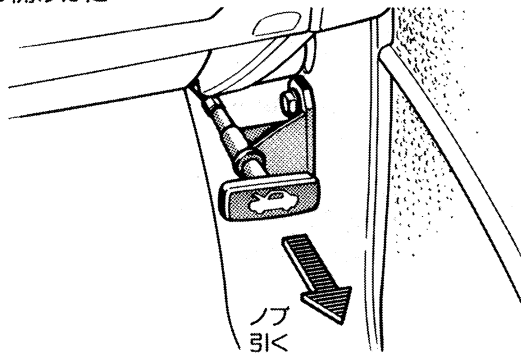
注意

- 走行中または一時停止時にルーフ開口部から頭や手、物などを出さないでください。
- 作動スイッチ操作は手や首をはさまないように充分注意してください。特にお子さまには気をつけてください。

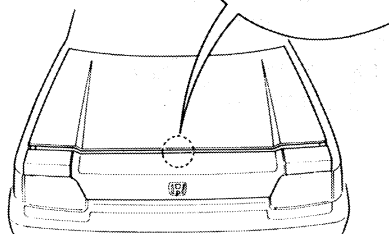


ボンネット

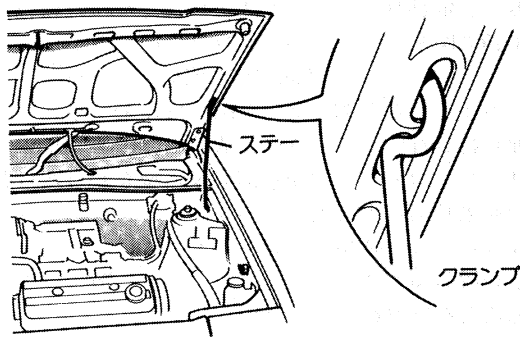
●開けかた



ノブを引きます。



ボンネット前部が少し浮き上がりますので、レバーを右へ押しながら開けます。



必ず保持棒(ステー)をかけ、固定します。

●閉めかた

保持棒(ステー)を外しクランプに差し込みます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。
ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

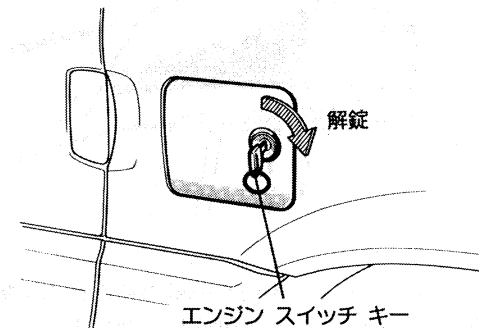
(注意)

ボンネットを開けているとき風にあおられて保持棒(ステー)が外れることがあります。
特に風の強い日はご注意ください。

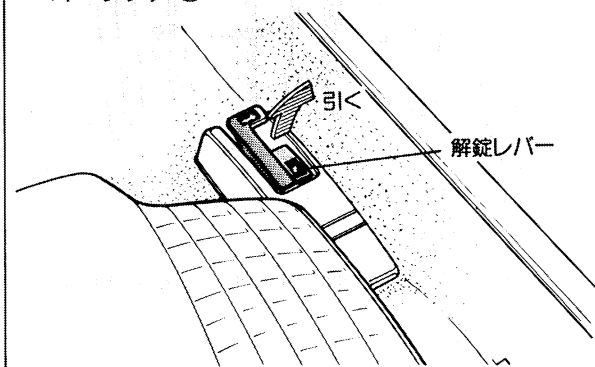
燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

●車外からの解錠

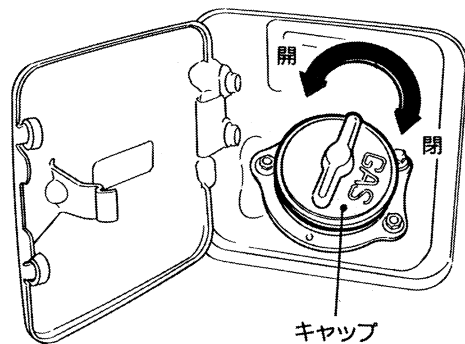


●車内からの解錠(フューエル リッド オープナ)



運転席の右下にあるレバーを引き上げます。

●キャップの開閉



- 使用燃料は無鉛ガソリンです。

注意

燃料補給時は火気厳禁です。
エンジンは必ず止めてください。

●閉めるとき

キャップを閉めてから、補給口のふたを手で押さえつければ施錠されます。

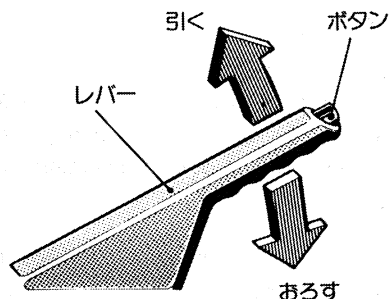
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100



エンジンのかけかたと運転のしかた

駐車ブレーキ	31
エンジンのかけかた	31
変速レバーの操作 手動変速機車	33
切り換えレバーの操作 ホンダマチック3AT車	33
切り換えレバーの操作 ホンダマチック4AT車	34
ホンダマチック 3AT車の運転のしかた	35
ホンダマチック 4AT車の運転のしかた	36

駐車ブレーキ



レバーをいっぱいに引けば後輪ブレーキがききます。戻すときはレバーを軽く引き上げながら、レバー先端のボタンを押し込み、そのまま下に完全におろします。

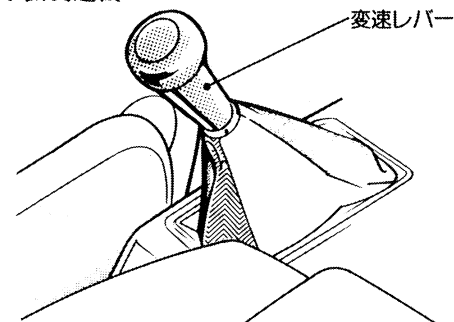
●駐車するとき、必ず駐車ブレーキをかけてください。 積雪・寒冷時の取り扱い ●76ページ



レバーを引くときはボタンを押さずに操作してください。

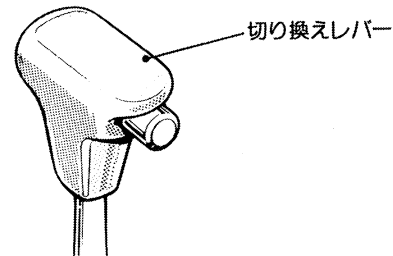
エンジンのかけかた

●エンジンをかける前に
〈手動変速機〉



駐車ブレーキをかけ、変速レバーを中立にしてください。

〈ホンダマチック 3AT/4AT〉



駐車ブレーキをかけ、切り換えレバーを[P]にしてください。

切り換えレバーの操作

ホンダマチック3AT車 ● 33ページ

切り換えレバーの操作

ホンダマチック4AT車 ● 34ページ

●かけかた

1. 5i, Siタイプ

(電子制御燃料噴射装置装備車)

1. アクセル ペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスタータを回してください。
2. エンジン始動後は、電子制御燃料噴射装置の働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

- エンジン始動に時間がかかるときは、アクセル ペダルを半分程度踏み込んだまま、スタータを回してください。エンジンが始動したら、エンジンの回転上昇に合わせてアクセル ペダルを徐々に戻してください。

1. 3, 1.3Lタイプ

エンジンが冷えているとき

1. エンジンが始動する前にアクセル ペダルを下表にもとづいてゆっくりいっばいに踏み込んで離す動作を繰り返します。これにより自動的にチョークがセットされます。

外 気 温 度	踏み回数
暖かいとき (15℃ 以上)	1
寒いとき (15℃ ～ -15℃)	2 ～ 3
特に寒いとき (-15℃ 以下)	3 ～ 4

2. アクセル ペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスタータを回してください。

- 始動しなかったときは、もう1回だけアクセル ペダルをいっばいに踏み込んで離してから再始動してください。
- もしそれでも始動しないときは、アクセル ペダルを半分程度踏み込んだまま、スタータを回してください。そのときアクセル ペダルをバタバタさせないでください。プラグが濡れて始動がむずかしくなります。

3. エンジン始動後はチョークの働きによりエンジン回転が次第に高くなります。気温により相違しますが数分間で暖機が完了し、エンジン回転が自動的にアイドリング近くまで下がります。

燃費と騒音を低くおさえるために次の操作をおすすめします。

始動後エンジン回転が安定したら、一度軽くアクセル ペダルを踏んで離すことによりエンジン回転が下がります。

その後も徐々にエンジン回転が上昇しますので、高くなった場合は再度同じ操作をしてください。

エンジンが暖まっているとき

1. アクセル ペダルを半分程度踏み込んだまま、スタータを回してください。
そのときアクセル ペダルを何度もバタバタさせないでください。
2. エンジンが始動したらエンジンの回転上昇に合わせて、アクセル ペダルを徐々に戻してください。

- ライト スイッチ、ファン スイッチ、後面ガラス曇り取りスイッチはOFFにした方が始動は容易になります。
- バッテリー上がりを防ぐため、スタータは連続して15秒以上回さないでください。
15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーをOFFの位置に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- 寒い日または数日間以上運転しなかったときは、必ず暖機が完了してから走行してください。

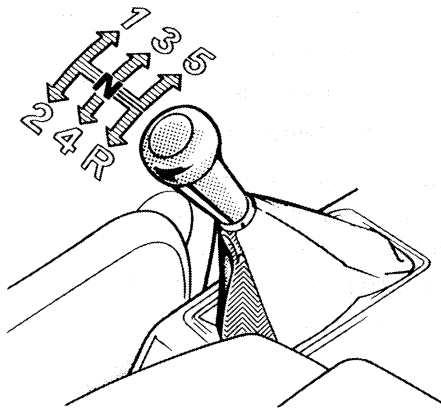
注意

- 換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。
ガス中毒をおこす危険があります。
- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、必ず点検を受けてください。

変速レバーの操作

手動変速機車

●変速レバー



変速するときはクラッチペダルをいっぱい踏み込んで変速レバーを確実に操作します。

- ⑤からⒺ(後退)へは直接、変速できません。一度Ⓔ(中立)へ戻してから変速してください。
- 変速機を傷めないためにⒺには車が完全に停止してから変速してください。

●速度範囲

平坦地における各変速位置での速度範囲は下の表を参考としてください。

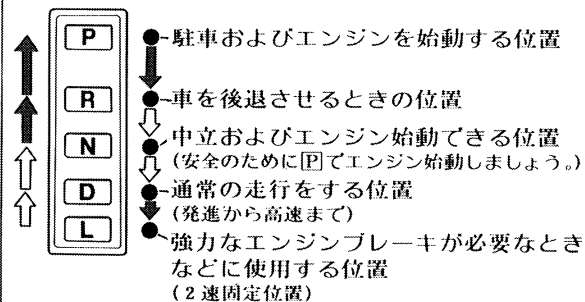
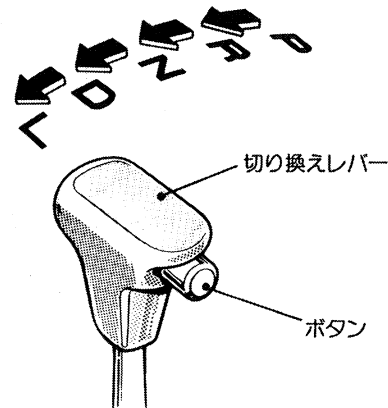
変速位置	速度範囲		
	1.3, 1.3L	1.5i	Si
1 速	0～40km/h	0～40km/h	0～50km/h
2 速	15～85km/h	15～70km/h	15～85km/h
3 速	25～100km/h	25～100km/h	25～100km/h
4 速	※40km/h～	※40km/h	※40km/h～
5 速	※45km/h～	※45km/h	※45km/h～

※：平坦地を5km/h程度低い速度で走行することは可能です。

- エンジンを過回転させないため上限速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまでは急発進、急加速を避け、表の上限速度よりも控え目な運転をしてください。

切り換えレバーの操作 ホンダマチック 3AT車

●切り換えレバーの操作



合…ボタンを押さずにレバーを操作します。

この操作を必ず習慣づけてください。

合…ボタンを押して操作します。

- 切り換えレバーの操作は各位置ごとに節度をつけ、確�に行ってください。

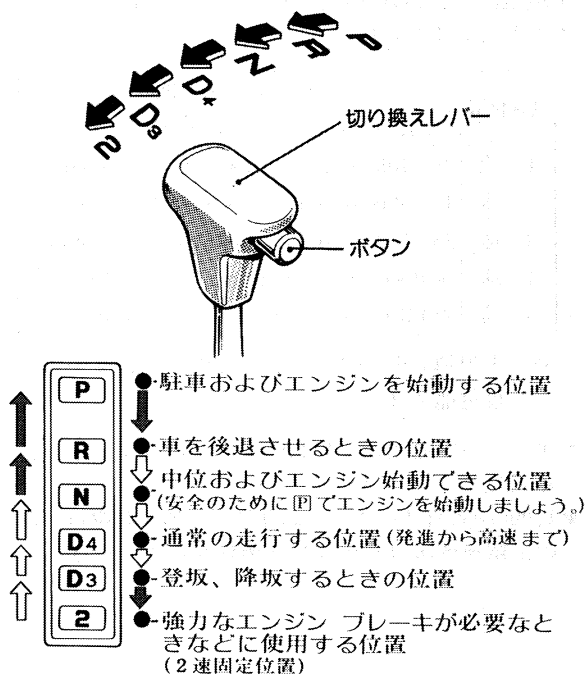
●速度範囲

位置	速度範囲	変速範囲
[D]	0 km/h～	1 ⇄ 2 ⇄ 3 速
[L]	0 ～100km/h	2 速

- 走行中、**[L]**への切換えは、エンジンを過回転させないため**[L]**の速度範囲内で行ってください。
- 1,000km/h走行するまでは急発進、急加速を避け表の上限速度よりも控え目な運転をしてください。

切り換えレバーの操作 ホンダマチック 4AT車

●切り換えレバー



↑…ボタンを押さずにレバーを操作します。
この操作を必ず習慣づけてください。

⬆…ボタンを押して操作します。

- 切り換えレバーの操作は各位置ごとに節度をつけ、ゆっくり確実に行ってください。

●速度範囲

位置	速度範囲	変速範囲
[D₄]	0 km/h～	1 ⇄ 2 ⇄ 3 ⇄ 4 速
[D₃]	0 ～100km/h	1 ⇄ 2 ⇄ 3 速
[2]	0 ～100km/h	2 速

- 走行中、**[D₃][2]**への切り換えは、エンジンを過回転させないため**[D₃][2]**の速度範囲内で行ってください。
- 1,000km走行するまでは急発進、急加速を避け表の上限速度よりも控え目な運転をしてください。

ホンダマチック 3AT車の運転のしかた

発 進		走 行	一 時 停 止	駐 停 車
前 進	後 退	通常走行(発進から高速まで)	信号待ちなど	
D	R	D	D、LまたはN	P
ブレーキ ペダルを踏んだまま切り換えレバーを操作し、ブレーキ ペダルを離してアクセル ペダルをゆっくり踏んで発進させます。 注意 ●D、N以外では車が動き出す状態になります。切り換えレバーを操作する時には必ずブレーキ ペダルを踏んだまま行ってください。またブレーキ ペダルの操作は右足で確実に行ってください。 ●アクセル ペダルを踏み込んだまま、切り換えレバーを操作しないでください。急発進して危険です。 ●暖機中(エンジン回転が高いとき)に発進する場合は、急なとび出しをふせぐために、徐々にブレーキ ペダルを離してください。		アクセル ペダルの踏み加減と速度により1速から2速、3速と自動的に変速されます。 加速したいときは、アクセル ペダルを踏み込むと、レバーはDでも速度とアクセル ペダルの踏み加減により3速→2または1速の位置へ自動的に変速され、加速されます。 特に急な下り坂や長い下り坂などではLを使って強力なエンジン ブレーキをかけます。 注意 ●前進から後退、後退から前進するときは車を完全に停止してから、ブレーキ ペダルを踏んだまま切り換えレバーを操作してください。 ●走行中にNに入れないでください。エンジン ブレーキがきかなくなります。 ●高速走行中にNに入れないでください。急激なエンジン ブレーキがかかり、過回転で故障したり、車がスリップすることがあります。	一時停止時は切り換えレバーは走行位置のままブレーキ ペダルを踏み続けます。 またはNにしてブレーキ ペダルを踏み続けます。 さらに駐車ブレーキを併用すると確実です。 注意 ●上り坂でアクセル ペダルを踏みながら停止状態を保つことはやめてください。ブレーキを使って確実に停止してください。 ●切り換えレバーがRまたはN以外では、アクセル ペダルを踏まなくても車はゆっくり動き出す性質があります。ブレーキは確実に操作してください。	車が完全に止まったらブレーキ ペダルを踏んだまま切り換えレバーをPに入れます。 車を離れるときは駐車ブレーキをかけてエンジンを止めます。 注意 駐停車中はむやみにエンジン回転を上げないでください。

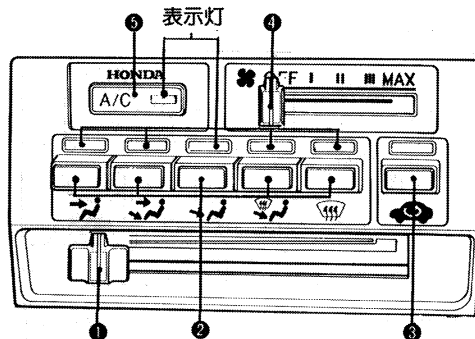
ホンダマチック 4AT車の運転のしかた

発 進		走 行		一 時 停 止	駐 停 車
前 進	後 退	経 済 走 行 通常走行(発進から高速まで)	山間路走行 パワフル走行 エンジン ブレーキが必要なとき	信号待ちなど	
D ₄ またはD ₃	R	D ₄	D ₃ または 2	D ₄ D ₃ 2 または N	P
ブレーキ ペダルを踏んだまま で切り換えレバーを操作し、 ブレーキ ペダルを離してア クセル ペダルをゆっくり踏 んで発進させます。 注意 ● R、N以外では車 が動き出す状態に なります。切り換 えレバーを操作す る時には必ずブレ ーキ ペダルを踏 んだまま行ってく ださい。またブレ ーキ ペダルの操 作は右足で確実に 行ってください。 ● アクセル ペダル を踏み込んだまま、 切り換えレバーを 操作しないでくだ さい。 急発進して危険で す。 ● 暖機中(エンジン 回転が高いとき) に発進する場合は、 急なとび出しをふ せぐために、徐々 にブレーキ ペダル を離してください。		アクセル ペダルの踏み加減 と速度により1速から2速、 3速、4速と自動的に変速さ れます。 加速したいときは、アクセル ペダルを踏み込むと、レバー はD₄でも速度とアクセル ペ ダルの踏み加減により4速→ 3、2または1速の位置へ自 動的に変速され、加速されま す。 下り坂では速度に応じてD₃ (普通のエンジン ブレーキ)ま たは2(強力なエンジン ブレ ーキ)に入れてエンジン ブレ ーキをかけます。 注意 ● 前進から後退、後退から前進するときは車を完全に停 止してから、ブレーキ ペダルを踏んだまま切り換え レバーを操作してください。 ● 走行中にNに入れないでください。エンジン ブレー キがきかなくなります。 ● 高速走行中に2に入れないでください。急激なエンジ ン ブレーキがかかり、過回転で故障したり、車がス リップすることがあります。	アクセル ペダルの踏み加減 と速度により1速から2速、 3速と自動的に変速されます。 加速したいときは、アクセル ペダルを踏み込むと、レバー はD₃でも速度とアクセル ペ ダルの踏み加減により3速→ 2または1速の位置へ自動的 に変速され加速されます。 特に急な下り坂や長い下り坂 などでは2を使って強力なエ ンジン ブレーキをかけます。 注意 ● 上り坂でアクセル ペダルを踏みなが ら停止状態を保つ ことはやめてくだ さい。ブレーキを 使って確実に停止 してください。 ● 切り換えレバーが RまたはN以外で は、アクセル ペダ ルを踏まなくても 車はゆっくり動き 出す性質がありま す。ブレーキは確 実に操作してくだ さい。	一時停止時は切り換えレバー は走行位置のままブレーキ ペ ダルを踏み続けます。 またはNにしてブレーキ ペ ダルを踏み続けます。 さらに駐車ブレーキを併用す ると確実です。 注意 駐停車中はむやみに エンジン回転を上げ ないでください。	車が完全に止まったらブレー キ ペダルを踏んだまま切り 換えレバーをPに入れます。 車を離れるときは駐車ブレー キをかけてエンジンを止めま す。

ヒータ・エアコンの 使いかた

各部の操作のしかた.....	37
ヒータ・エアコンの使いかた.....	38

各部の操作のしかた

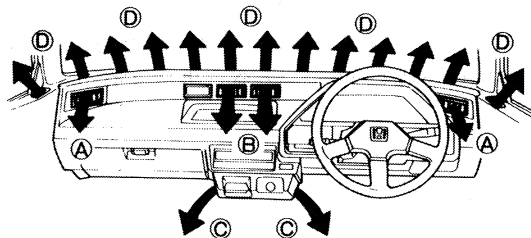


① 温度調節レバー

レバーを左右に動かし、吹き出し風の温度を調節します。右に動かすと、吹き出し風の温度が高くなります。

② 吹き出し口切り換えスイッチ

スイッチを押すと表示灯が点灯し吹き出し口が切り換わります。



スイッチ位置	吹き出し口
	A、B
	A、B、C
	C、D
	C、D
	D

- “” 位置ではDからも少し吹き出します。

③ 内外気切り換えスイッチ

スイッチを押せば内気循環になり表示灯が点灯し、もう一度押せば表示灯が消え、外気導入になります。

- 通常の暖房時はガラスの曇りを防ぐため、外気導入で请使用してください。
- トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているときは一時的に内気循環にしてください。

④ ファン スイッチ

レバーで“OFF”から“Ⅰ”(弱)、“Ⅱ”(中)、“Ⅲ”(強)、“MAX”(最強)と4段階に風量調節ができます。

⑤ エアコン スイッチ エアコン装備車

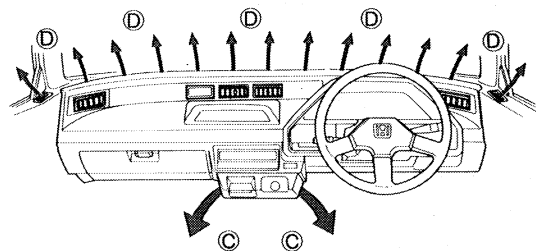
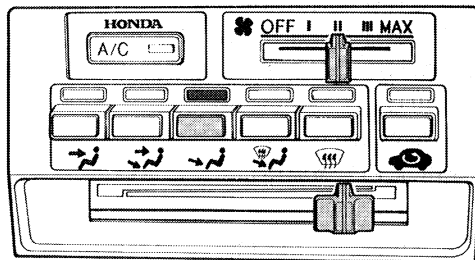
エンジンが作動しているときに、ファン スイッチを入れ、エアコン スイッチを押すとスイッチが入り、表示灯が点灯します。もう一度押すと切れます。

冷房や除湿暖房をするときに使います。

- 通常の暖房として使用するときには、スイッチを切っておいてください。

ヒータ・エアコンの使いかた

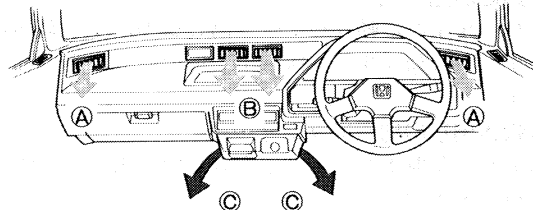
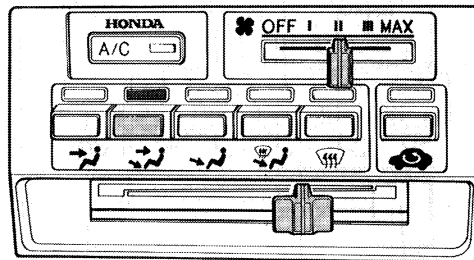
●暖房



各レバー、スイッチを図の位置にします。
ファン スイッチを入ると温風が③から吹き出します。このとき①からも少し吹き出します。
急速に車内を温めたい場合は、内外気切り換えスイッチを内気循環にし、温度調節レバーを右いっぱいにして、ファン スイッチを最強にします。

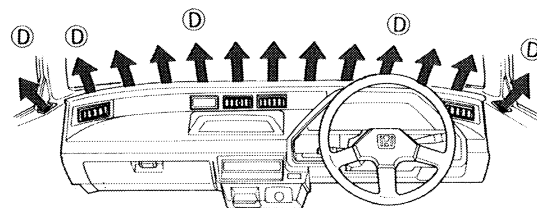
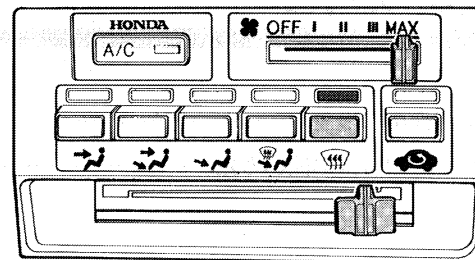
●急速暖房で車内が暖まったら、前面ガラスの曇りを防ぐため、内外気切り換えスイッチを外気導入にしてください。

●頭寒足熱暖房



各レバー、スイッチを図の位置にします。
ファン スイッチを入ると③から温風が、④、⑤からは比較的溫度の低い風が吹き出します。

●前面/側面ガラスの霜取り(デフロスタ)、曇り止め

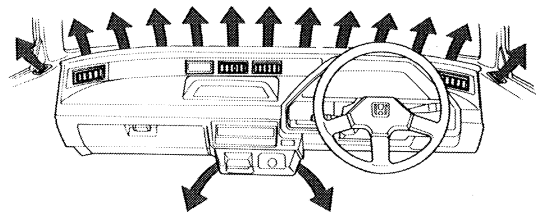
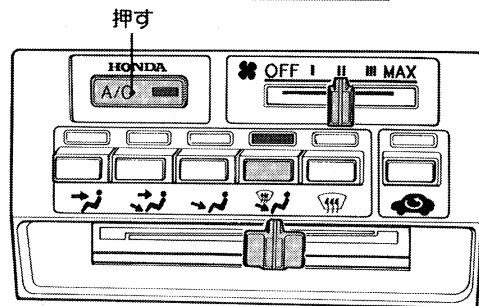


各レバー、スイッチを図の位置にします。
夏期の曇り止めには温度調節レバーを適度に調節します。
エアコン装備車は、梅雨時など湿度の高いときはエアコン スイッチを入ると、除湿された温風が吹き出し前面/側面ガラスの曇り止めに効果があります。

注意

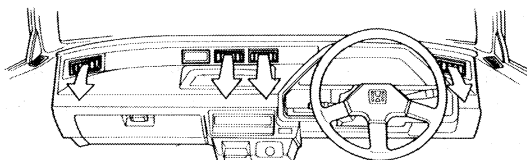
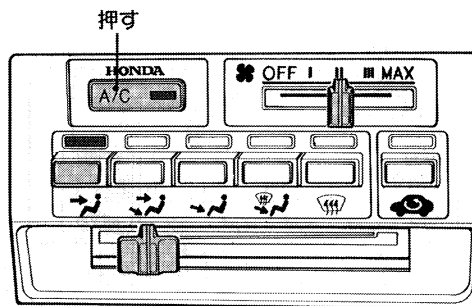
エアコンスイッチを入れているときには、温度調節レバーを左端(最大冷房)付近にしないでください。
冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあります。

●除湿暖房、曇り止め エアコン装備車



各レバー、スイッチを図の位置にし、エアコンスイッチ、ファンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出します。春、秋などの雨天で曇りやすいときに使用します。外気が除湿され乾燥した空気で温めますので、曇り止めに役立ちます。

●冷房 エアコン装備車

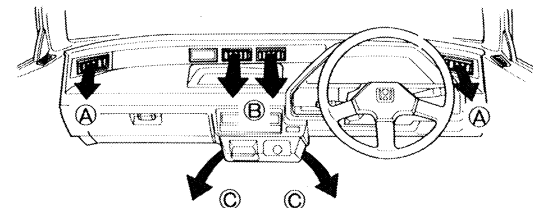
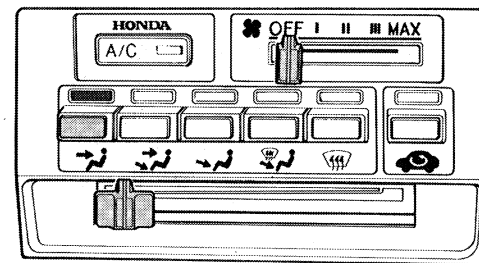


各レバー、スイッチを図の位置にし、エアコンスイッチ、ファンスイッチを入れると、外気を冷やして冷風が吹き出します。

急速に車内を冷やしたい場合は、内外気切り換えスイッチを内気循環にし、温度調節レバーを左いっぱいにして、ファンスイッチを最強にします。

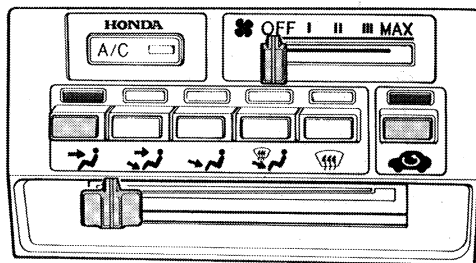
- 急速冷房で車内が冷えたら、内外気切り換えスイッチを外気導入にしてください。内気循環のまま長時間使用すると車内の空気が汚れます。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。

●換気



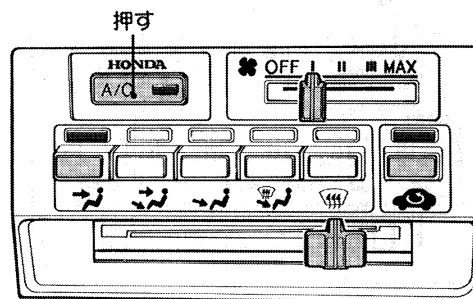
各レバー、スイッチを図の位置にすれば、走行中に④、⑤から外気が吹き出します。吹き出し口切り換えスイッチを“”位置にすれば、③からも吹き出します。低速、停車時にはファンスイッチを入れると強制的に換気ができます。

●使用しないとき



各レバー、スイッチを図の位置にします。

●冷房を常用しない場合の手入れ エアコン装備車



装置各部のオイルを切らさないために、週に一度は数分間エンジンを低回転させた状態でエアコンを使用してください。

- 室内の温度が低い場合は、作動しないことがあります。このような場合は室内を暖めてから図の状態にしてください。

いざというときには

故障した場合	41
故障の修理は	41
非常発炎筒	42
けん引について	42
タイヤ チェン	43
簡単な応急処置	44
電球（バルブ）の交換	45

故障した場合

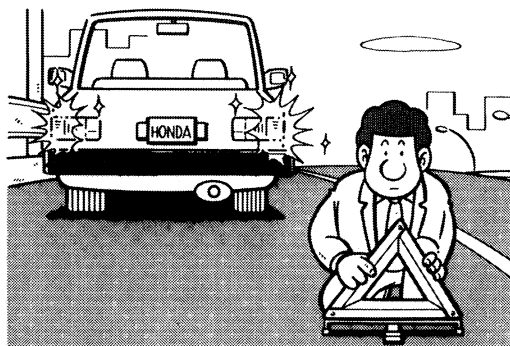
車を路肩に停め、非常点滅灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板、非常発炎筒も使用し、後続する車に故障車とわかるようにします。

●踏切でエンストしたとき

1. 付近に人がいる場合は押してもらってください。
2. 急を迫られているときはただちにグローブボックス下に備え付けられている非常発炎筒で合図をしてください。
3. 手動変速機車で急を要する場合はギヤを2速に入れて、クラッチペダルを踏まずにスタータを回し、抜け出してください。
ホンダマチック3AT/4AT車はこの方法は使えません。

●高速道路で

車を路側帯に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を置いて表示してください。



故障の修理は

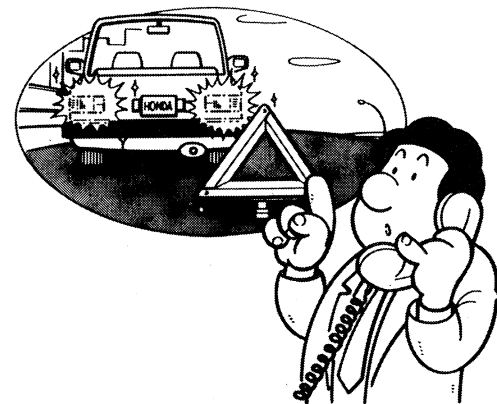
ホンダ販売店へお申しつけください。

お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理致します。長くかかるものは、予定をお知らせします。

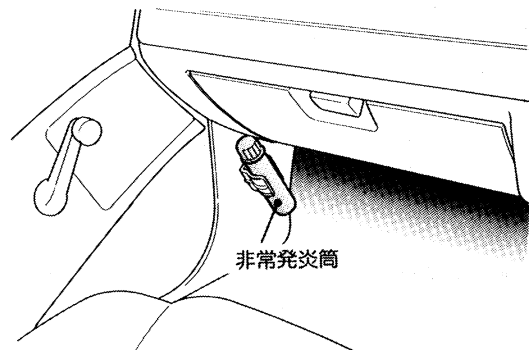
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。

遠出などのときは全国どこでも最寄りのホンダ販売店へご連絡ください。

所在地、電話番号については別冊「整備手帳」をご覧ください。



非常発炎筒



高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使用します。

- このような場合は非常点滅灯も使用してください。
- 使用方法は、発炎筒に記載されています。
あらかじめよく読んでおいてください。

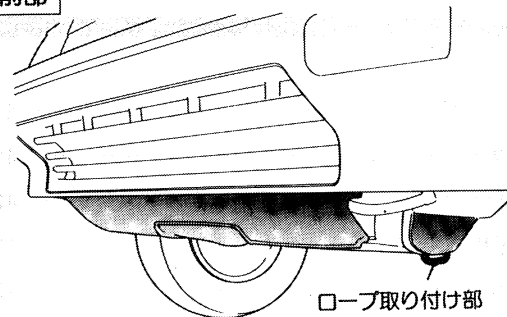


注意

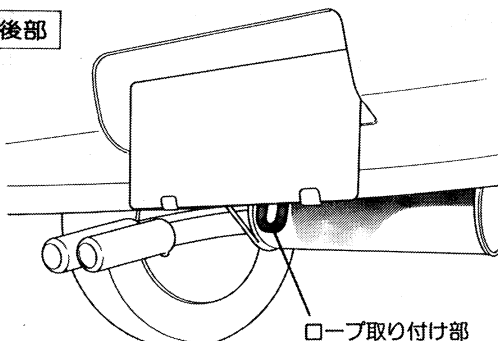
- お子さまにいじらせないでください。
- 発炎筒を使用するとき顔やからだに向けてと火傷の危険があるので避けてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると火災を招く危険があるので避けてください。
- トンネル内で使用すると視界を悪くするので危険です。
トンネル内では非常点滅灯を使用してください。
- 発炎筒は有効期限がありますので事前に確認しておいてください。

けん引について

前部



後部



けん引したり、けん引されたりするときにはロープ取り付け部を利用します。

- 他の部分へロープなどをかけないでください。
- ロープ取り付け部はけん引にのみご使用ください。
- けん引時はロープ取り付け部に大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
- ロープ取り付け部には横向きに大きな荷重をかけないでください。

注意

けん引されるときはエンジン スイッチを“ACC”の位置にしてください。
“LOCK”位置でエンジン キーが抜けるとハンドルが固定され危険です。

タイヤ チェン

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェンまたはスノータイヤを装着します。

●但し、地方条例により、違いがありますのでその地区の公安委員会が指定する条例に従ってください。

●標準的なタイヤ チェンの取り付けかた

前輪駆動車ですので、チェンは前輪に取り付けてください。

●応急用スベアタイヤには標準タイヤ用のタイヤ チェンは装着できません。

前輪がパンクした場合は、応急用スベアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤ チェンを装着してください。

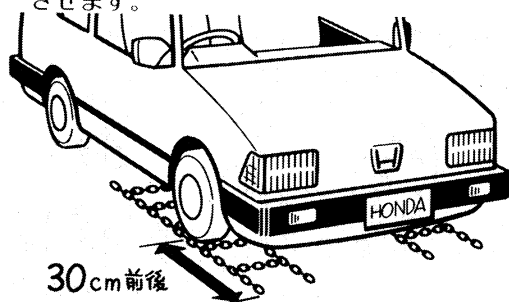
1. 前輪を直進状態にする。

2. クロス チェンの折り曲げ部が下側になるようにしてチェンを前輪のすぐ前に敷きます。



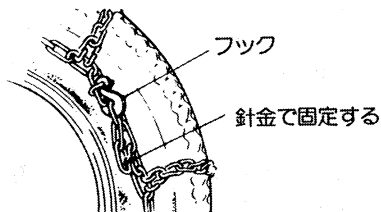
クロス チェンの
折り曲げ部

3. 先端のフックから約30cmの位置まで前輪を移動させます。

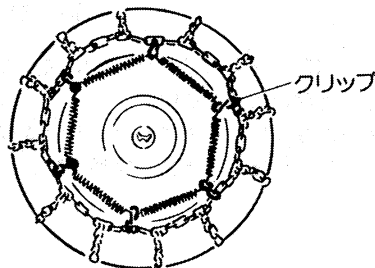


4. チェンをタイヤにまきつけていっぱい引いて内側のフックを先に連結し、次に外側のフックを連結します。

5. 連結してチェンが余った場合ボディなどに当たるのを防止するために針金で固定します。



6. チェン バンドのクリップを外向きにしてチェンをいっぱいに張ります。



7. 試走してチェンの取り付け状態を確認します。

●指定チェン サイズ

タイヤ サイズ	指定チェン サイズ
155SR13	45171
165/70SR13	45171
175/70SR13	45181
185/60R14 82H	45181

お求めはホンダ販売店にお申しつけください。

注意

●タイヤ チェンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。必要に応じて非常点滅灯などを使用してください。

●チェンはタイヤに合った適正なサイズのものをご使用ください。サイズの合わないチェンを使用すると、ブレーキ配管やフェンダを破損し、危険です。

●タイヤ チェンを取り付けたときはつぎの速度以下で運転してください。

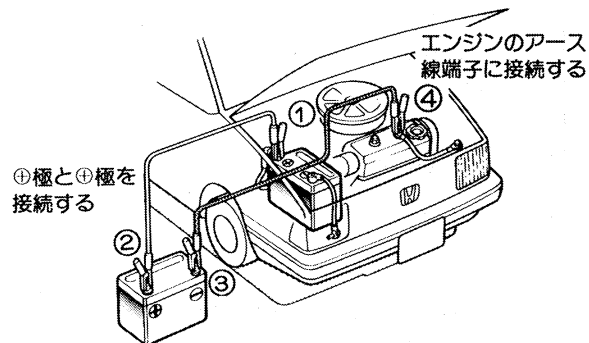
雪道、凍結路……30km/h以下

なお乾燥路面ではタイヤ チェンを装着したままで走行するのは避けてください。

●スノータイヤを装着したとき、高速走行は避けてください。

簡単な応急処置

●バッテリー上がりの場合

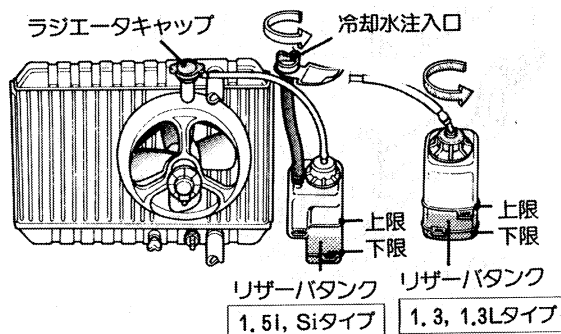


他のバッテリーを利用してエンジンをかける場合は図の番号順にコードを接続し、エンジン始動後は逆の順序でコードを取り外してください。

注意

- 放電したバッテリーに他のバッテリーを接続してエンジン始動する場合は⊕、⊖極を間違えないように注意してください。
- バッテリーの充電をするときはすべてのキャップを外してください。
- 換気には十分注意し、密閉された場所では行わないでください。

●オーバー ヒートした場合



1. 車を安全な場所に止め、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。このとき、冷却ファンが作動していることを確認してください。

●万一、ファンが作動していない場合は、エンジンを止めてください。

2. 水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。
3. エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。

冷却装置の点検 ● 51ページ

4. 冷却水量が不足していたら補給します。
補給方法は 冷却水の補給 ● 70ページ

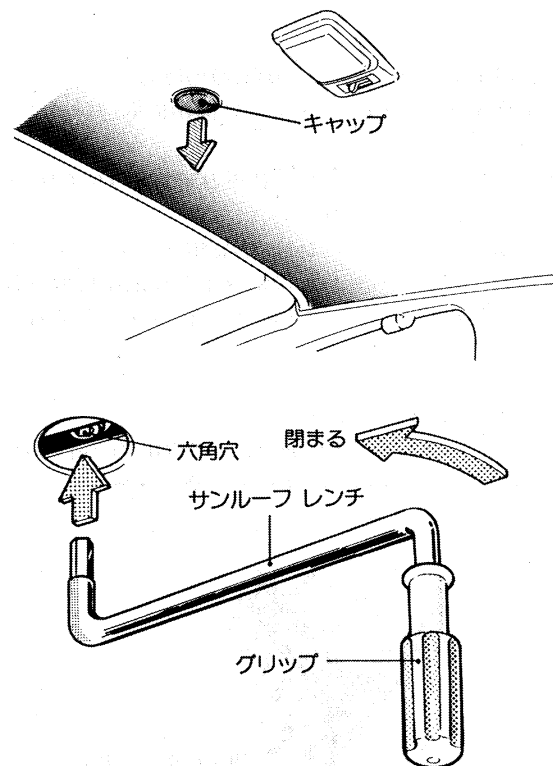
注意

水温が高いときラジエータ キャップを外さないでください。
冷却水には圧力がかかっていますので蒸気や熱湯がふき出し危険です。

●サンルーフが作動しない場合

万一、電動でサンルーフが閉まらなくなった場合は工具内のサンルーフ レンチを使って閉めてください。

工具については ● 63ページ



後席ルーフ中央のキャップを取り外し、六角穴にサンルーフ レンチを差し込みます。サンルーフ レンチを矢印の方向に回します。

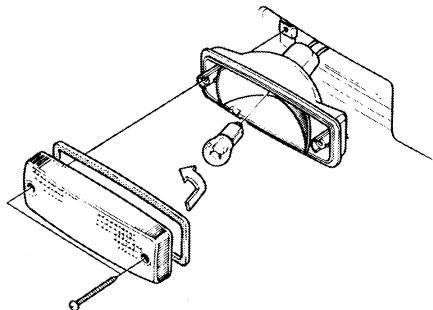
●応急処置後は点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

電球切れが確認された場合には、次の要領で交換します。

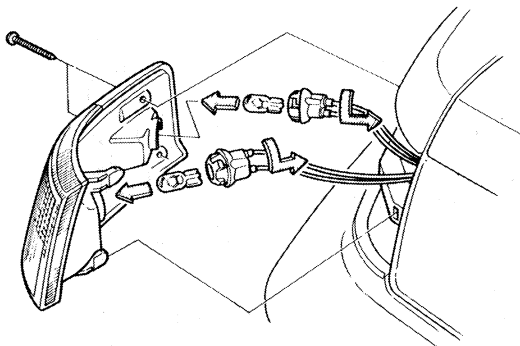
- レンズを取り付けるときは、ネジを締めすぎないようにしてください。
レンズを破損する恐れがあります。
- 前照灯は調整を必要としますので、最寄りのホンダ販売店へお申しつけください。

● 前面方向指示灯／前面非常点滅灯



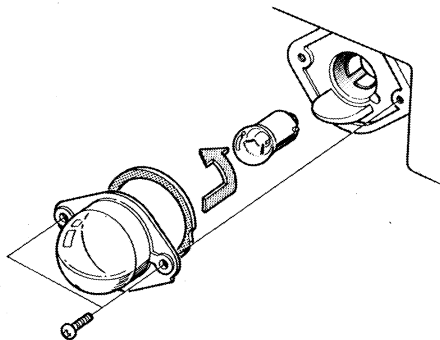
ネジをゆるめてレンズを外し、電球を押しながら左へ回します。

● 側面方向指示灯／側面非常点滅灯 車幅灯／前面駐車灯



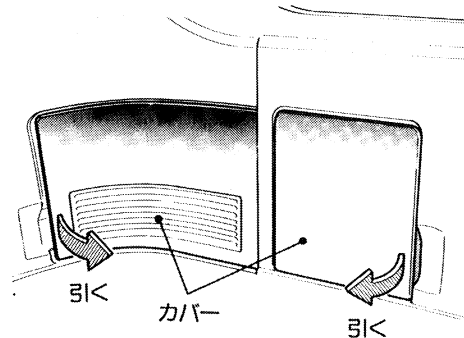
ネジをゆるめレンズを外します。ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

● 番号灯

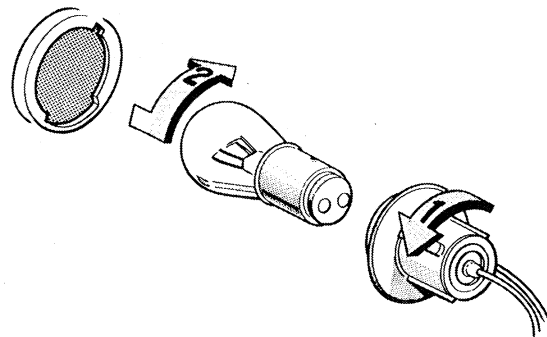


ネジをゆるめレンズを外し、電球を押しながら左へ回します。

● 後面方向指示灯／後面非常点滅灯 制動灯／尾灯・後面駐車灯 後退灯

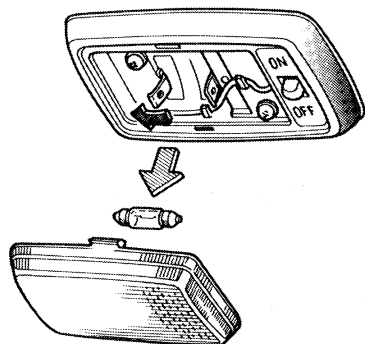


カバーを外します。



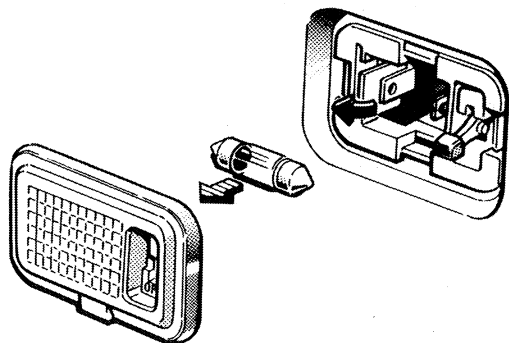
ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回します。

●室内灯



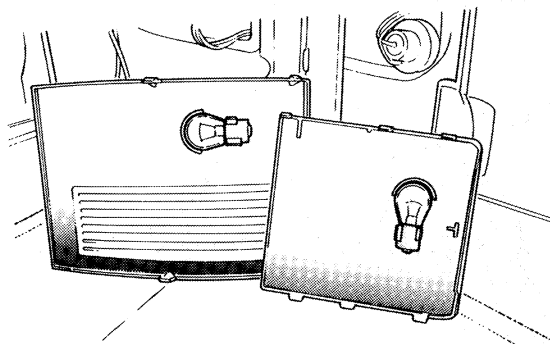
レンズを外し、電球を外します。

●後部ドア照明灯



レンズを外し、電球を外します。

●予備電球の携帯



尾灯のカバーの裏に予備電球を携帯できます。

電球のワット(W)数 ●79ページ

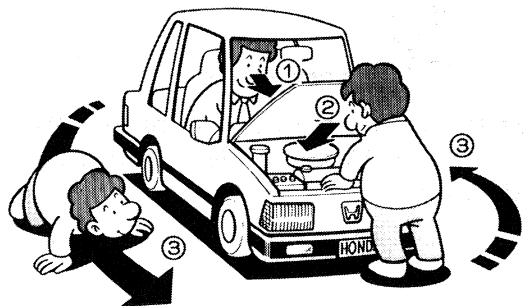
運行前点検

運行前点検は、自動車を使用する人が、1日1回、運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。

この点検は運転席にすわったり、エンジン ルームをのぞいたり、また自動車の周りを回りながら自動車の状態をみることによって容易に出来るものです。運行前点検を確実にを行うためには一定の順序で行うことが効果的です。

ここに点検順序を示します。

●異常が認められた場合は必ず整備を行ってください。



注意

エンジン ルーム内の点検はエンジンの高熱部や自動的に回転しだす冷却ファンに十分注意してください。

前日の異状箇所の点検

① 運転席にすわって

■ 後写鏡の点検 ➡ 48ページ

■ 駐車ブレーキの点検 ➡ 49ページ

■ ブレーキの点検 ➡ 49ページ

※燃料の量の点検 ➡ 49ページ

② エンジンルームをのぞいて

■ ブレーキ液量の点検 ➡ 50ページ

※冷却装置の点検 ➡ 51ページ

※エンジン オイル量の点検 ➡ 51ページ

※ファン ベルトの点検 ➡ 51ページ

③ 車の周りを回りながら

■ 反射器、ナンバ プレートの点検 ➡ 52ページ

■ 灯火装置、方向指示器の点検 ➡ 53ページ

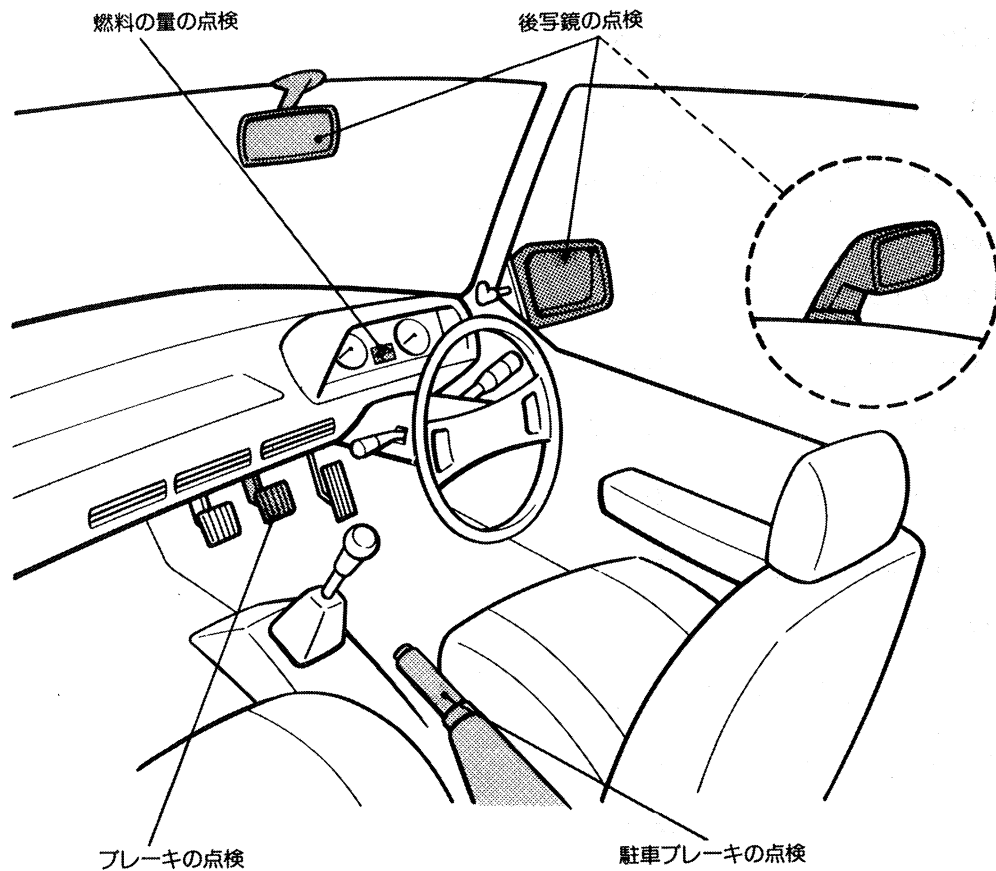
■ タイヤの点検(※溝の深さの点検のみ) ➡ 53ページ

※印の点検項目は、80km/h以上で走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には、行わなくてもよい項目です。

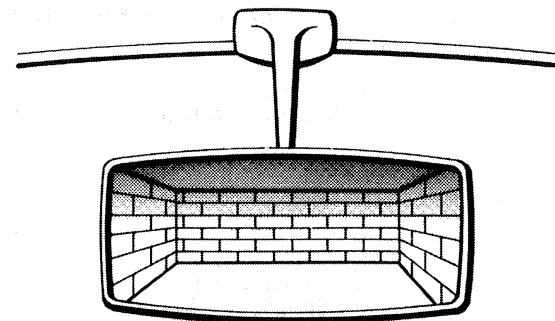
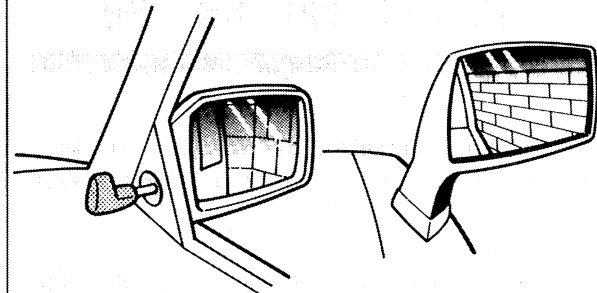
前日の異状箇所の点検

運行に支障がないかを点検します。

①運転席にすわって

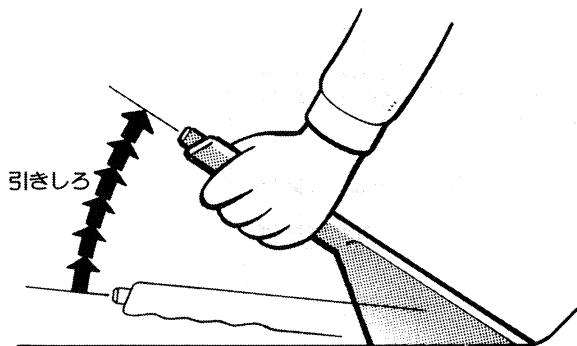


後写鏡の点検



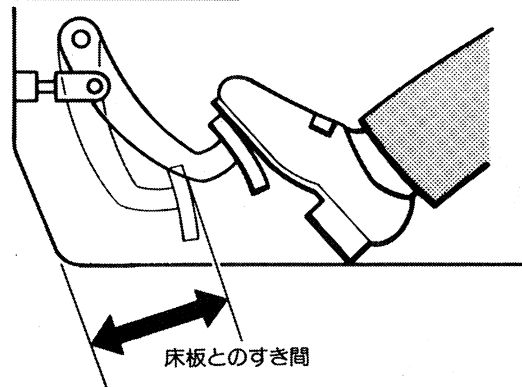
運転席に正しくすわって、後方や側方の状況が十分に確認できる位置に、後写鏡が調整されてるかを点検します。

駐車ブレーキの点検



レバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて（操作力20kg）、4～8回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。

ブレーキの点検



エンジンを始動し、2～3回ペダルを踏み込んだのち、ペダルを力強く（踏力20kg）5秒以上踏み続けて床板とのすき間を点検します。

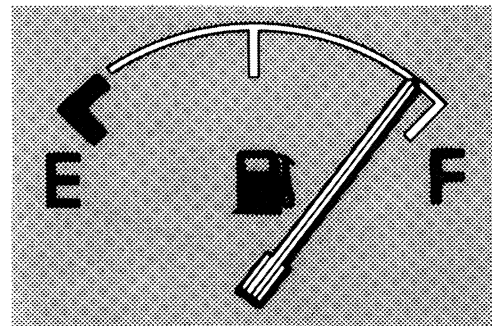
床板とのすき間は100mm以上が適正です。

- 踏み込んだときふわふわする感じがある場合、または踏み続けたときペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。このようなときには、ブレーキのきき不良や片ぎきの恐れがあります。ただちに整備を受けてください。



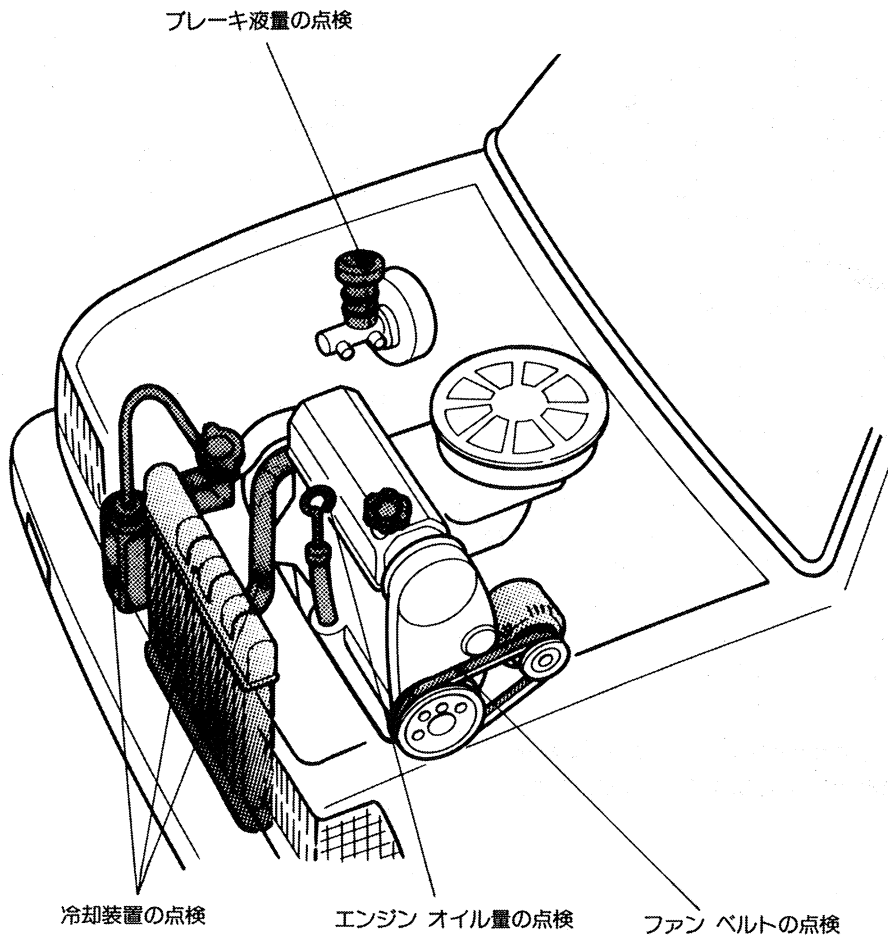
ブレーキが片ぎきですと、ブレーキをかけたときにハンドルをとられて危険です。

燃料の量の点検 ※

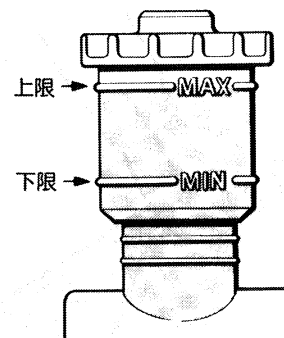


エンジン スイッチを“ON”にして、燃料計により燃料の量が目的地まで走行するのに十分であるかを点検します。

②エンジン ルームをのぞいて



ブレーキ液量の点検

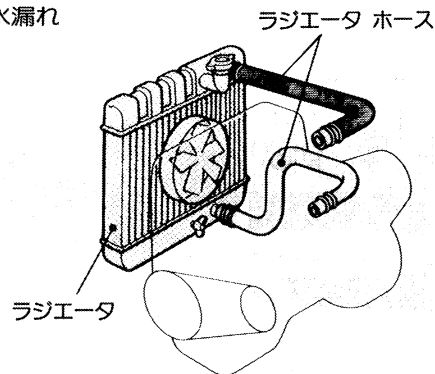


リザーバ タンクの液量が上限（MAX）と下限（MIN）の間にあるかを点検します。

- 液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。 ブレーキ液の補給 ●66ページ
- 万一液の減りかたが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ただちに整備を受けてください。

冷却装置の点検 ※

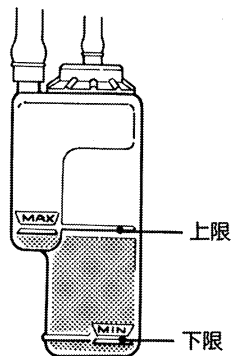
●水漏れ



ラジエーター、ラジエーター ホースなどから水漏れがないかを点検します。

このとき、車を停めておいた地面に水が漏れたあとがないかも調べます。

●冷却水の量

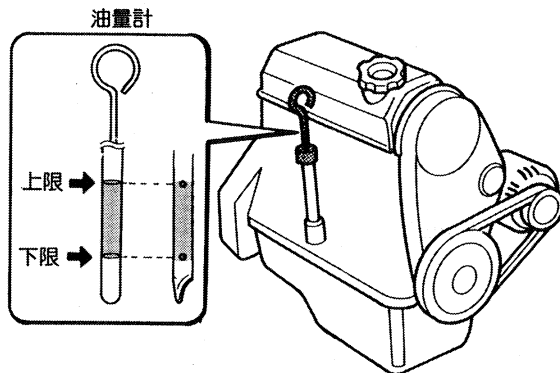


リザーバ タンク内の冷却水の量が上限 (MAX) と下限 (MIN) の間にあるかを点検します。

●液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

冷却水の補給 ●70ページ

エンジン オイル量の点検 ※



エンジン オイルの量が、油量計 (オイル レベル ゲージ) の目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。

点検は、油量計を抜き取り、付着しているオイルをふいて、再びいっばいに差し込み、もう一度抜いてオイルの量をみます。

下限に近くなったら上限まで補給してください。

エンジン オイルの補給 ●69ページ

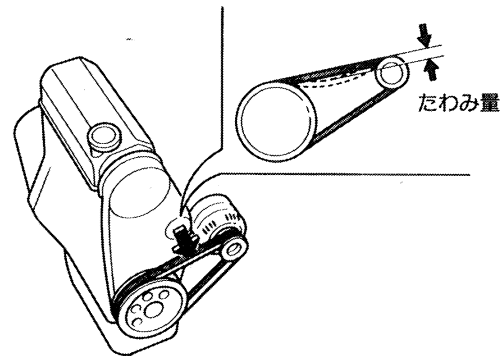
●点検するときは、車を水平な場所に置いて行ってください。

傾いていると正確な量を示さないことがあります。

●オイル量はエンジン始動前かエンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。

ファン ベルトの点検 ※

(発電機ベルトを点検してください。)

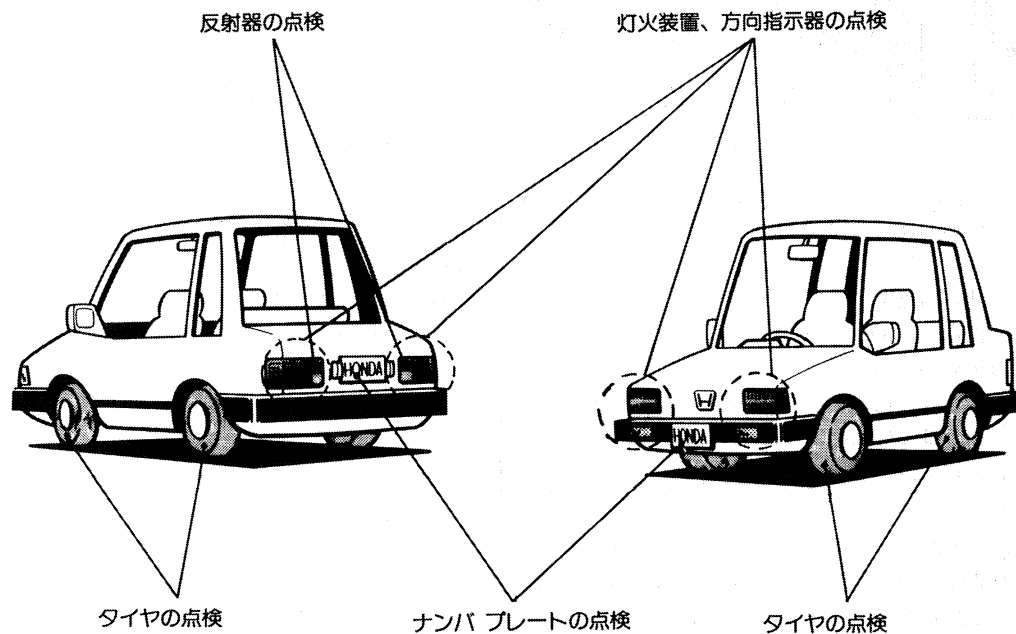


発電機ベルトの中央部を指で強く押して (10kgの荷重)、たわみ量を点検します。

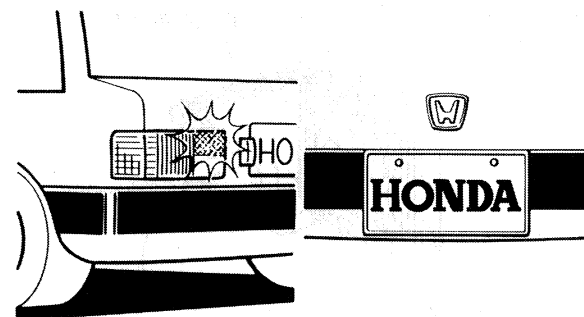
このときベルトに傷がないかも点検します。

たわみ量は7～10mmが適正です。

③車の周りを回りながら



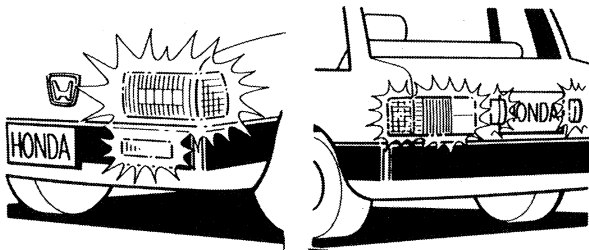
反射器、ナンバープレートの点検



反射器、ナンバープレートに著しい汚れや損傷がないかを点検します。

また、ナンバープレートが確実に取り付けられているかも手でさわって調べます。

灯火装置、方向指示器の点検



前照灯、車幅灯、尾灯、番号灯、後退灯、方向指示器などを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。このとき、レンズに汚れや損傷がないかも調べます。

ブレーキ ペダルを軽く繰り返し踏み、制動灯が点滅するかを点検します。点検は壁や鏡を利用するか、他の人に見てもらうなどして確認します。

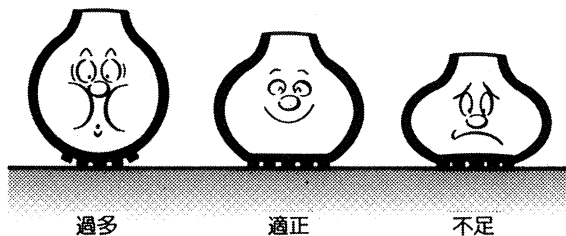
タイヤの点検

●空気圧

(空車時：単位kg/cm²)

サイズ ●	空気圧	
	前輪	後輪
155SR13	1.8	1.8
165/70SR13(高压タイヤ)	2.5	2.2
165/70SR13	1.8	1.8
175/70SR13	1.7	1.7
185/60R14 82H	2.0	2.0
T105/80D13(応急用スペアタイヤ)	4.2	4.2

- タイヤの空気圧およびサイズは、運転席側ドア開口部に表示してあります。



タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

●亀裂、損傷

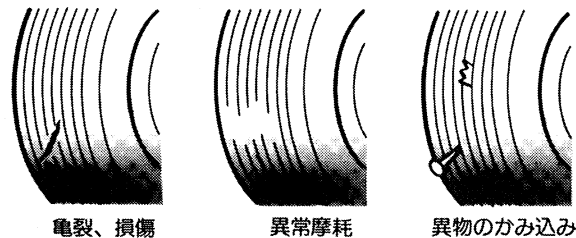
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

●異常な摩耗

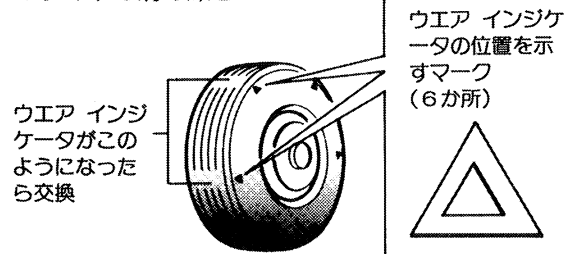
タイヤの接地面に、極端にすり減っている箇所がないかを点検します。

●異物のかみ込み

タイヤに釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



●タイヤの溝の深さ ※



タイヤの溝の深さに不足がないかをウエア インジケータ（摩耗限度表示）により点検します。

ウエア インジケータが表われたらタイヤを交換してください。 **タイヤ交換** ●64ページ

- ウエア インジケータはタイヤの円周に6か所あり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

注意

タイヤの摩耗、損傷、石など異物のかみ込みおよび指定外のタイヤ空気圧は、タイヤの寿命や乗り心地、操縦性を損ないます。

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

6 か 月 点 検

自家用乗用車は法令によって、6 か月、12 か月、24 か月の定期点検を行うことが義務づけられています。ホンダ販売店で必ず点検を受けてください。

6 か月点検については、乗用車の構造と装置についての基礎的な技術知識を有する方であれば、ご自身で行うことができます。

ご自身で6 か月点検を行う場合は、次頁以下の点検方法に基づき作業してください。

- 点検結果は所定の用紙に記録する必要があります。点検結果の記録用紙(定期点検整備記録簿)は、別冊“整備手帳”に掲載されています。記録は2年間保存してください。

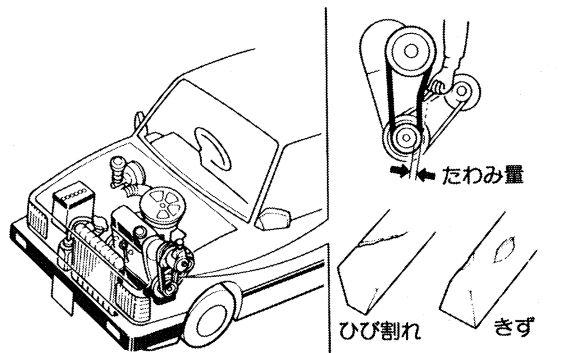
点検するときは安全に十分注意してください。

- 静止状態での点検は平坦な場所で、車輪に輪止めをしてから行ってください。
- エンジン ルーム内の点検はエンジンの高熱部や自動的に回転したす冷却ファンに十分注意してください。
- 換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。
- 走行して点検するときは周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- ジャッキ アップして点検するときは適切なジャッキを使用してください。(お車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時のみ使用するものです。)

●点検項目

- パワー ステアリング装置のベルトのゆるみ ⑤56ページ
- ブレーキ ペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間 ⑤56ページ
- ブレーキのきき具合 ⑤56ページ
- 駐車ブレーキ レバーの引きしろ ⑤57ページ
- ブレーキ ホース、パイプの漏れ、損傷、取り付け状態 ⑤57ページ
- リザーバ タンクの液量 ⑤57ページ
- タイヤの空気圧 ⑤58ページ
- タイヤの亀裂、損傷 ⑤58ページ
- タイヤの溝の深さ、異常な摩耗 ⑤58ページ
- タイヤの金属片、石その他の異物 ⑤59ページ
- クラッチ ペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間 ⑤59ページ
- バッテリーの液量 ⑤59ページ
- エンジン オイルの汚れ、量 ⑤60ページ
- 冷却水の量 ⑤60ページ
- ファン ベルトのゆるみ、損傷 ⑤60ページ
- 灯火装置、方向指示器の作用 ⑤61ページ

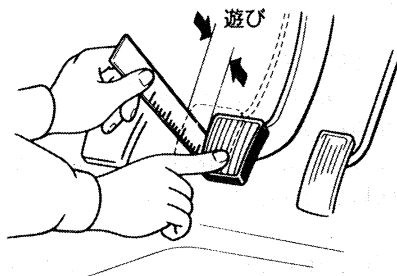
パワー ステアリング装置のベルトの ゆるみ、損傷



ベルトの中央部を指で強く押して（10kgの荷重）、たわみ量を点検します。
このとき、ベルトに傷やひび割れがないかも点検します。
たわみ量は18～22mmが適正です。

ブレーキ ペダルの遊び、踏み込んだ ときの床板とのすき間

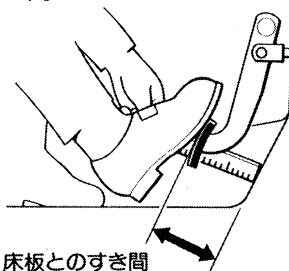
●遊び



エンジンを停止させた状態で、2～3回ペダルを踏み込んだのちに、ブレーキ ペダルを指で押し、抵抗を感じるまでの移動量（遊び）を定規などで点検します。

遊びは1～5 mmが適正です。

●床板とのすき間



エンジンを始動し、2～3回ペダルを踏み込んだのち、ペダルを力強く（踏力20kg）5秒以上踏み続けて床板とのすき間を定規などで点検します。
床板とのすき間は100mm以上が適正です。

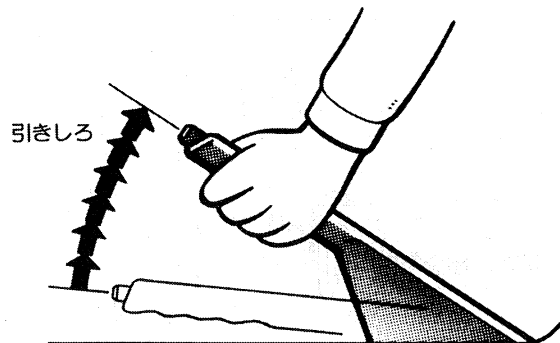
●踏み込んだときふわふわする感じがある場合、または踏み続けたときペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。
ただちに整備を受けてください。

ブレーキのきき具合



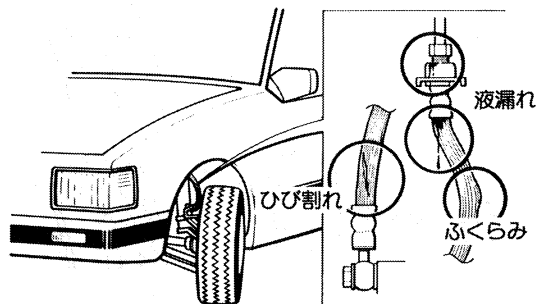
乾燥した路面で低速走行して、ブレーキ テストを行いきき具合が十分か、片ぎきがないかを点検します。

駐車ブレーキ レバーの引きしろ



レバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて(操作力20kg)、4～8回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。

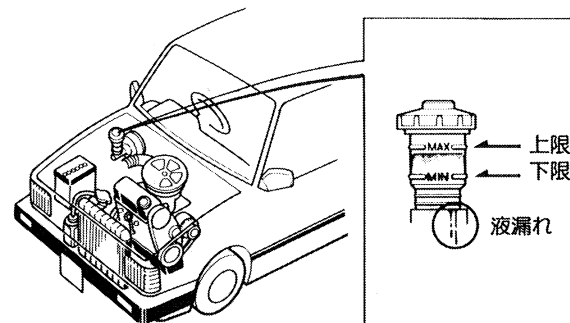
ブレーキ ホース、パイプの漏れ、損傷 取り付け状態



ハンドルを左にいっぱいに切った状態で、左側フロント ブレーキのブレーキ ホースに傷、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、または手でさわって点検します。また、ホースが車体などと接触していないかやホースの接続部から液漏れがないかも点検します。

次に、ハンドルを右にいっぱいに切り、右側のフロント ブレーキについても左側同様に点検します。

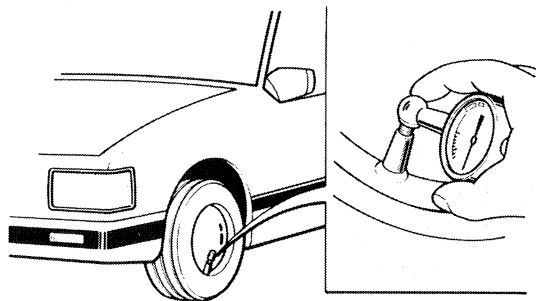
リザーバ タンクの液量



リザーバ タンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるか、タンク周辺から液漏れがないかを目視や手でさわって点検します。

- 液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。 **ブレーキ液の補給** ● 66ページ
- 万一、液の減りかたが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ただちに整備を受けてください。

タイヤの空気圧



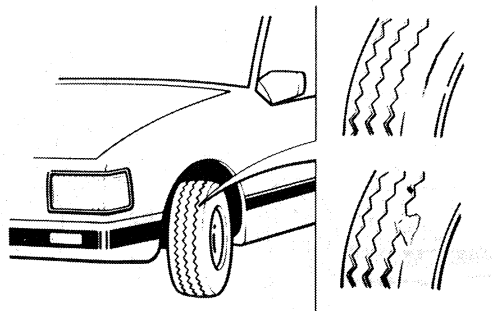
走行前、タイヤが冷えているときにタイヤ ゲージで空気圧を点検します。

(空車時：単位kg/cm²)

サイズ 	空気圧	前輪		後輪	
		一般	高速	一般	高速
155SR13		1.8		1.8	
165/70SR13 (高压タイヤ)		2.5		2.2	
165/70SR13		1.8		1.8	
175/70SR13		1.7		1.7	
185/60R14 82H		2.0		2.0	
T105/80D13(応急用スベアタイヤ)		4.2		4.2	

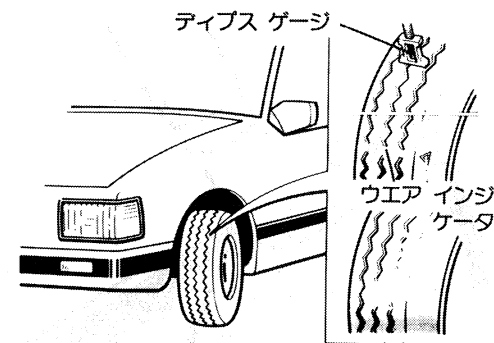
- スベア タイヤの空気圧は0.2kg/cm²くらい高めにしておき、使用するとき調整してください。

タイヤの亀裂、損傷



タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。

タイヤの溝の深さと異常な摩耗

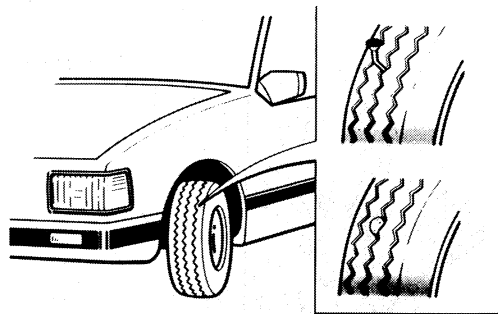


タイヤの接地面に表示されているウエア インディケータ(摩耗限度表示)またはディプス ゲージ(またはノギス)により溝の深さが1.6mm以上あるかを点検します。

タイヤの全周に片減りや局部摩耗、段付摩耗がないかを目視により点検します。

- ウエア インジケータは、タイヤの円周に6か所あり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

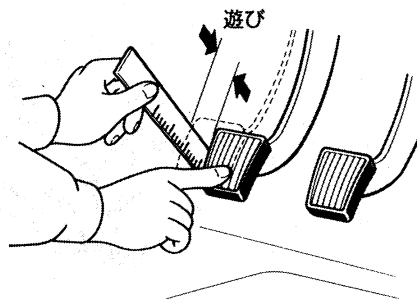
タイヤの金属片、石その他の異物



タイヤの接地面と両側面に釘や異物がささったり、溝に石などがかみ込んだりしていないかを目視や手でさわって点検します。

クラッチ ペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間

●遊び



ペダルを手で抵抗を感じるまで押したときの移動量（遊び）を定規で点検します。

遊びは16～21mmが適正です。

●切れたときの床板とのすき間



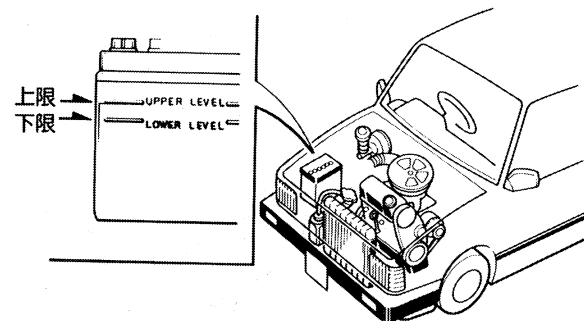
駐車ブレーキをいっばいに引き、エンジンを始動します。

アイドリング状態でペダルをいっばいに踏み込み、ギヤを1速に入れたのちペダルを徐々に離し、クラッチがつながる直前の状態（エンジン音に変化したり振動が発生したりします）でペダルと床板とのすき間を点検します。

切れたときの床板とのすき間は56mm以上が適正です。

●車が急発進しないように十分注意してください。

バッテリーの液量



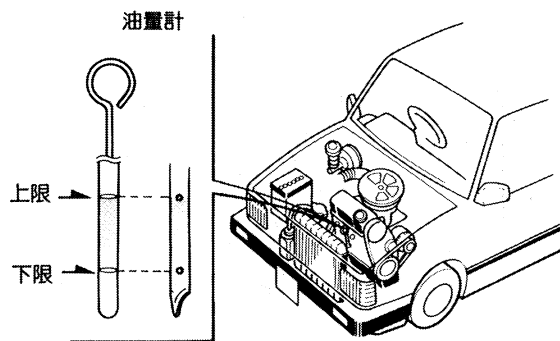
バッテリーの液面が各槽とも上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

バッテリー液の補給 ●67ページ

注意

- バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診断を受けてください。

エンジン オイルの汚れ、量



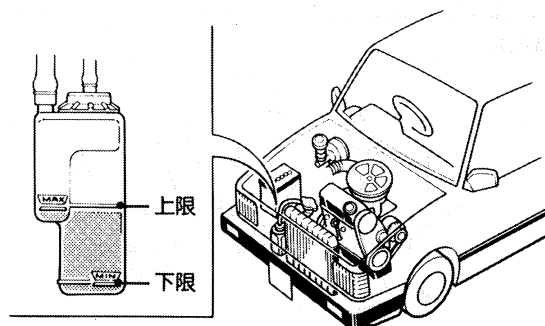
エンジンを停止させ、油量表（オイル レベル ゲージ）により、油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

また、油量表に付着したオイルを手でさわるか、または布などに付着させ、オイルの汚れ具合も点検します。

エンジン オイルの補給 ●69ページ

●点検は平らな場所でエンジンを始動する前か、またはエンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。

冷却水の量

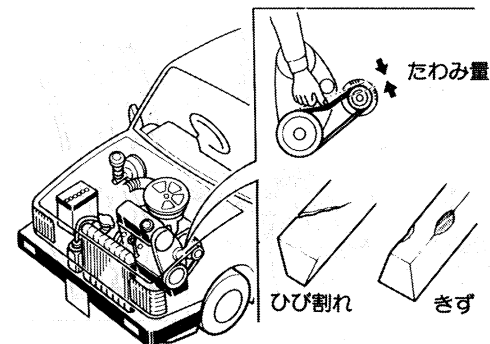


ラジエータ リザーバ タンク内の冷却水量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを目視により点検します。

冷却水の補給 ●70ページ

ファン ベルトのゆるみ、損傷

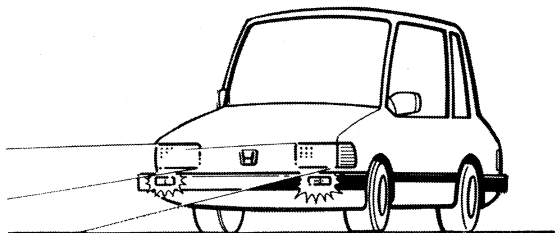
(発電機ベルトを点検してください。)



発電機ベルトの中央部を指で強く押して(10kgの荷重)、たわみ量を点検します。

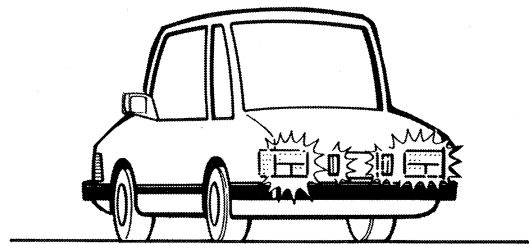
このときベルトに傷やひび割れがないかも調べます。ベルトのたわみ量は7～10mmが適正です。

灯火装置、方向指示器の作用



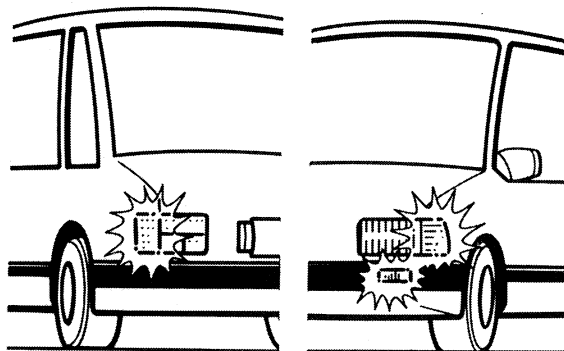
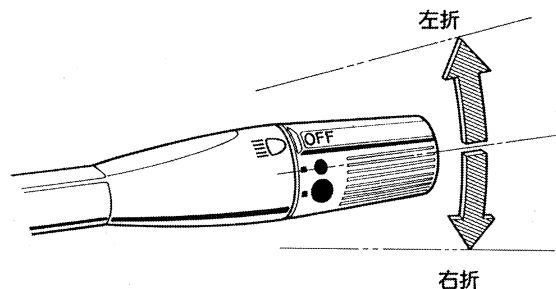
前照灯を点灯させ、明るさが不足していないか、照射方向が著しく狂っていないかを目視などにより点検します。

前照灯のレンズに破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



エンジン スイッチを“ON”にして、車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯、番号灯などを作動させ、点灯、または点滅するかを目視により点検します。

各灯器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



エンジン スイッチを“ON”にして、方向指示器を左右に作動させ、毎分60～120回の一定の周期で方向指示灯が点滅するかを点検します。

方向指示器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

簡単な整備と手入れ

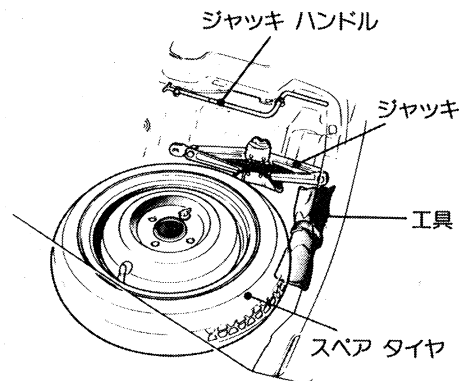
工具とジャッキ	63
タイヤ交換	64
ブレーキ液の補給	66
バッテリー端子部の清掃	67
バッテリー液の補給	67
ヒューズの交換	68
エア クリーナー紙部（エレメント）の交換	68
エンジン オイルの補給	69
冷却水の補給	70
ウオッシュ液の補給	70
ワイパ ブレード ラバーの交換	70
パワー ステアリング液の補給	71
エアコンの手入れ	71
塗装の手入れ	72
内装の手入れ	73
冬期の整備	73
積雪・寒冷時の取り扱い	74
アルミ ホイールの取り扱い	76

整備の際には次のことに注意してください。

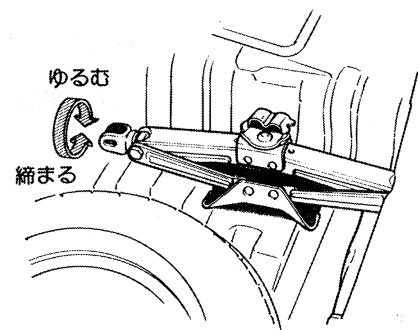
- 安全な場所を選んで行ってください。
- 適切な工具を使用してください。
- エンジンは停止状態で行ってください。
- 駐車ブレーキ レバーを十分に引き、車輪に輪止めをするなどして、車を動かないようにして行ってください。
- 自動車をリフト アップする場合には、適切なジャッキを使用してください（お車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時にのみ使用するものです）。
- エンジン ルーム内の整備はエンジンの高熱部や自動的に回転しだす冷却ファンに十分注意してください。
- 取り外した部品はエンジン ルーム内に置かないでください。
エンジン ルーム内に落としたり、万一の場合危険です。

工具とジャッキ

●格納場所



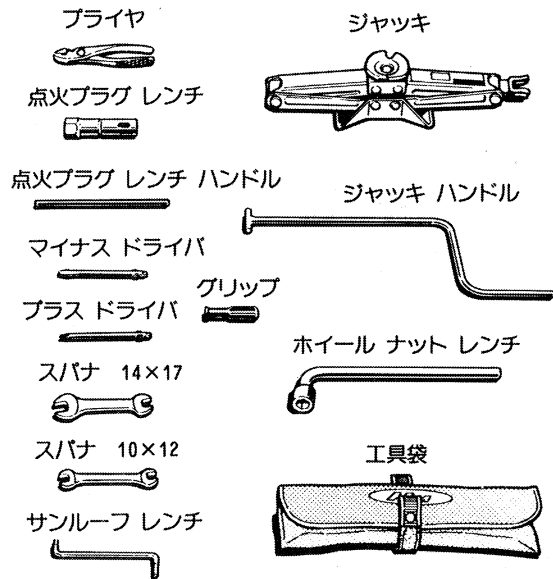
●ジャッキの脱着



ジャッキをゆるめて外します。

- ジャッキを取り付けるときはドライバなどで無理に締めないでください。

●工具



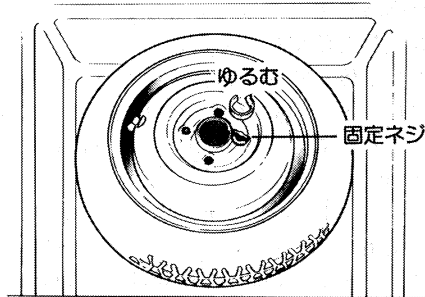
(サンルーフ レンチはサンルーフ装備車のみ)

注意

スペア タイヤ、工具類は所定の位置にし、
しっかり固定しておいてください。

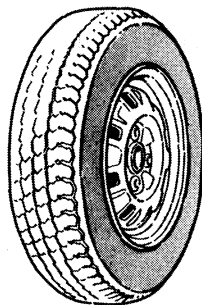
タイヤ交換

●スペア タイヤ (応急用スペア タイヤ)

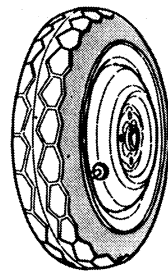


固定ネジをゆるめて取り出します。

〈標準タイヤ〉



〈応急用スペア タイヤ〉



応急用スペア タイヤは、タイヤがパンクしたときの
応急用としてのみに使用するタイヤです。

- スペア タイヤの空気圧はときどき点検し、指定空
気圧でご使用ください。

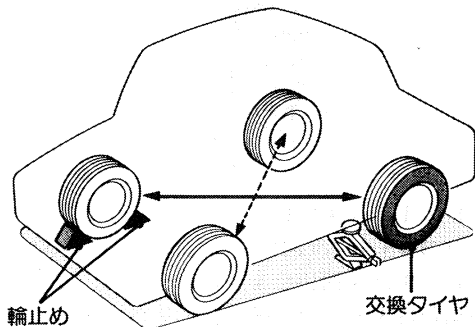
タイヤの空気圧 ●58ページ

応急用スペア タイヤは標準タイヤに比べて、空気圧
が高く、直径がやや小さくできています。ご使用の
際には次の注意事項をお守りください。

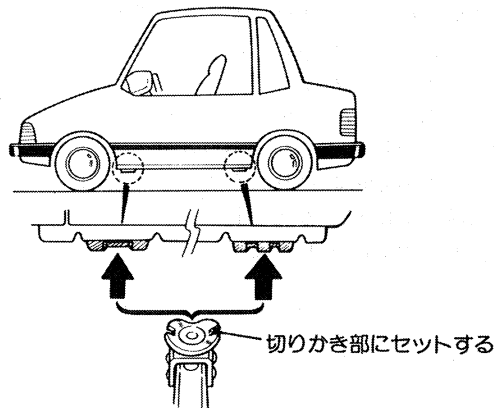
- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いく
ださい。(指定空気圧：4.2kg/cm²)
- 応急用スペア タイヤを装着した場合は100km/h以
下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換し
てください。
- 応急用スペア タイヤは標準タイヤと比べて直径が
小さいため、車高が少し低くなります。突起物な
ど乗り超えるときは、車の下にひっかけないよう
に注意してください。
- この応急用スペア タイヤとホイールはあなたのお
車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合
わせたり、他の型式の車に使用しないでください。
- 応急用スペア タイヤにはタイヤ チェンは装着で
きません。前輪がパンクした場合は、応急用スペア
タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪
に取り付け、これにタイヤ チェンを装着してくだ
さい。

●交換

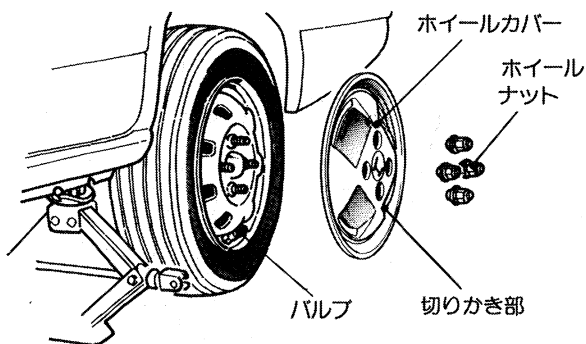
1. 車を安全な場所に停め、工具類、スペア タイヤを取り出します。
2. 駐車ブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。



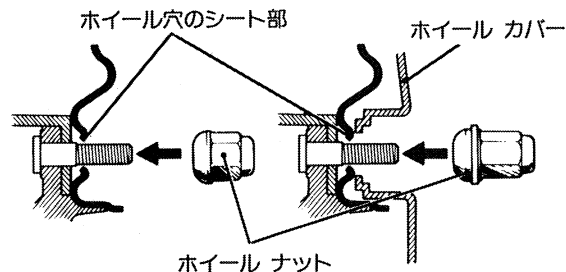
3. スペア タイヤは交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。
4. ジャッキは図の部分の交換するタイヤに近い位置にかけます。



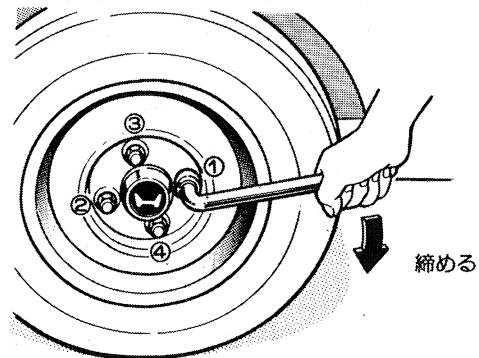
5. ホイール ナットをホイール ナット レンチで少し(約1回転)ゆるめます。
6. タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。
7. ホイール ナット、ホイール カバー●を外し、タイヤを交換します。
8. ホイール カバーを取り付けるときは、切りかき部がバルブの位置にくるようにします。



9. ホイール ナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイール ナットを締めます。



9. ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイール ナットを締め付けます。



(参考)

ホイール ナット締め付トルク	10～12 kg・m
----------------	------------

- ホイール カバー●は、ホイール ナットを外さないと取り外しができません。ドライバなどで無理にこじらないでください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締めないでください。トルクがかかりすぎる場合があります。
- スペア タイヤの空気圧は使用するときには調整してください。万一、未調整のまま走ると、速度を控え目にしてください。

タイヤの空気圧 ●58ページ

- バンク修理、タイヤの自然摩耗、リムの変形などでホイール バランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたら点検を受けてください。

- 必ず指定サイズおよび同一種類のタイヤを使用してください。
指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使用すると安全性を損ないます。
- タイヤ交換は地面の硬い平らな所で他の交通に十分注意して行ってください。
必要に応じて停止表示板、非常点滅灯を使用してください。
- ジャッキを使用するときは必ず指定された位置にかけ、乗っている人は降りてもらいまた荷物はおろしてください。
- 車がジャッキだけで支えられているときはエンジンをかけたり、車の下に入ったりしないでください。

注意

アルミ ホイール装備車

- ホイール ナット及びハブのネジ部には、絶対に油をつけないでください。油がついてしまうとゆるみの原因となります。
- パンク修理等でホイールを取り付け直した際には、1,000km走行時にホイール ナットのゆるみの有無を点検してください。
- インパクト レンチによる締付けは避けてください。

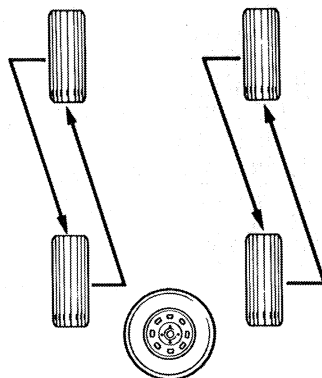
注意

●タイヤの位置交換 (タイヤ ローテーション)

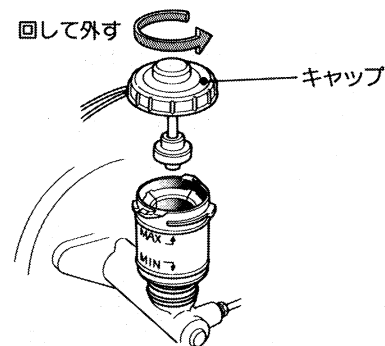
5,000km ごとにタイヤの位置を交換します。

同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

- 応急用スペア タイヤはタイヤの位置交換には使用しないでください。タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使用してください。



ブレーキ液の補給



1. ブレーキ液が不足している場合は、リザーバ タンクのキャップを回して外し、上限 (MAX) までブレーキ液を補給します。
2. 補給後はキャップを確実に締め付けます。

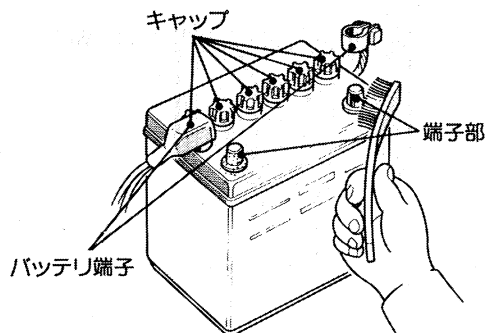
指定液：ホンダ純正ブレーキ フルード DOT 3

- 上限 (MAX) を越えて補給しないでください。
- 補給するときはこぼさないようにしてください。
車体にこぼしたときは、すぐにふき取ってください。塗装面を傷める恐れがあります。
- 補給はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン温度が高いときに排気系統へブレーキ液が付くと、発煙することがあります。
- ブレーキ液量の減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。
ただちに整備を受けてください。

注意

- ブレーキ液は粗悪品を使用したり、他の銘柄品を混用しないでください。ブレーキのきき具合やブレーキ系統に悪影響を与え危険です。
- 補給の際はゴミや水がタンクの中に入らないようにしてください。小さなゴミでも混じるとブレーキがきかなくなる恐れがあります。

バッテリー端子部の清掃



●作業は必ずエンジンを停止させて行ってください。

1. 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。
端子に白い粉がついているときは、ぬる湯で清掃します。

●清掃のときは、バッテリー槽内に異物が入らないように、注液口のキャップは締めておいてください。

2. 端子部の腐食が著しい場合は、端子部を取り外して、ワイヤ ブラシ、サンド ペーパーでみがきます。

●端子を取り外す場合は、マイナス側の端子から外してください。

取り付ける場合は、プラス側の端子から取り付けてください。

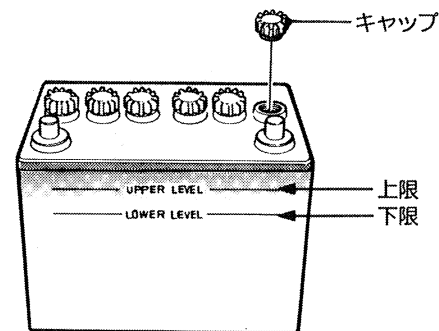
●端子部にゆるみが生じないよう確実に締め付けてください。

3. 清掃、締め付け後は、端子部にグリスを塗布します。

注意

バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。
バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。

バッテリー液の補給



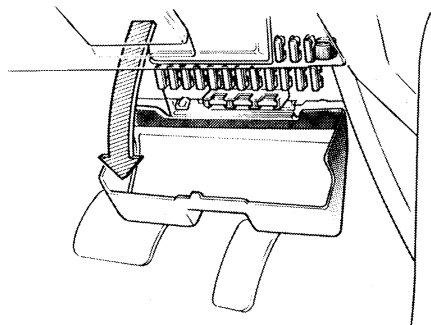
1. バッテリー液が不足している場合は、キャップを回して外し、各槽とも上限までバッテリー補充液（蒸留水）を補給します。
2. 補給後はキャップを確実に締め付けます。

注意

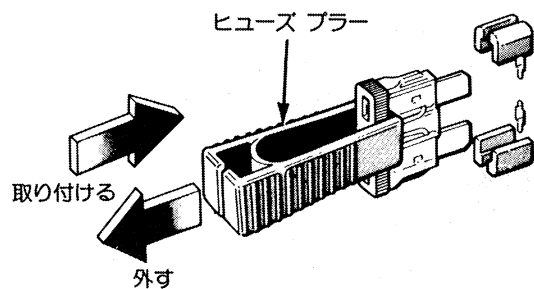
●バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。
バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。

●バッテリー液は希硫酸です。
目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

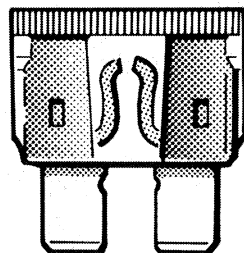
ヒューズの交換



ヒューズ ボックスは、運転席足元にあります。
エンジン スイッチを“LOCK”位置にし、故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズ ボックスの表示に従い確認し、ヒューズが切れていないかを点検します。



備えつけのヒューズ プラーでヒューズを外します。



切れた状態

ヒューズが切れた場合は、ヒューズ ボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は整備を受けてください。

注意

規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使用しないでください。
配線コードなどを焼損させる原因となります。

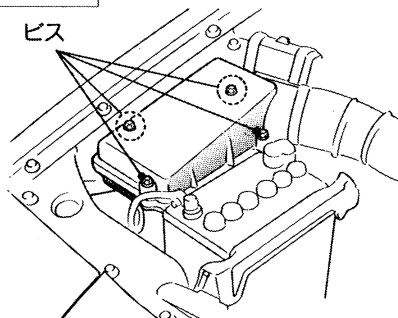
エア クリーナーろ紙部(エレメント)の交換

推奨交換時期

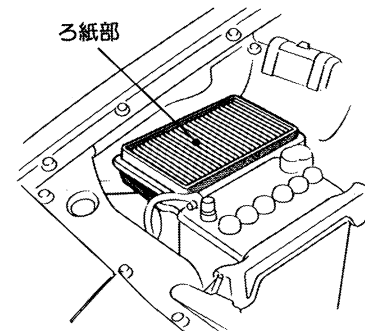
2年ごと

- ほこりの多い地区では早めに交換してください。
よごれたまま使用しますと燃費不良や加速不良などの原因となります。
- ろ紙はオイルを含んだタイプ(ビスカス タイプ)のため、清掃は不要です。

1. 5i, Siタイプ

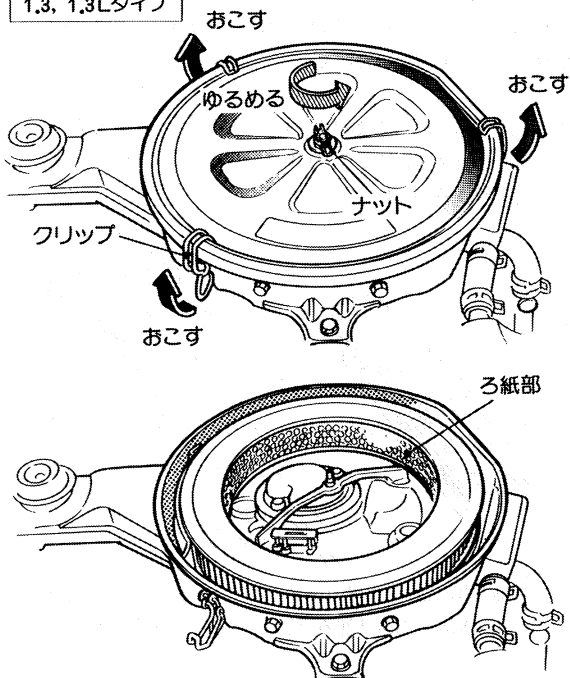


ろ紙部



1. プラス ドライバを使ってビス4本をゆるめ、カバーを取り外します。
2. ろ紙部を交換し、カバーをビス4本を締め付けて取り付けます。

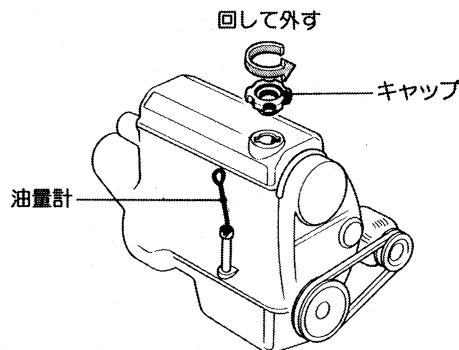
1.3, 1.3Lタイプ



1. クリップを外し、中央のナットをゆるめてカバーを取り外します。
2. ろ紙部を交換し、カバーを元の位置に取り付け、クリップとナットで確実に締め付けます。

- カバーを取り外したとき、ナットをキャブレター内などに落としたりしないようにしてください。
- 取り外したカバーやビス、ナットをエンジンルーム内に置いたままではエンジンがかかると、けがをしたり、部品が破損する恐れがあります。

エンジン オイルの補給



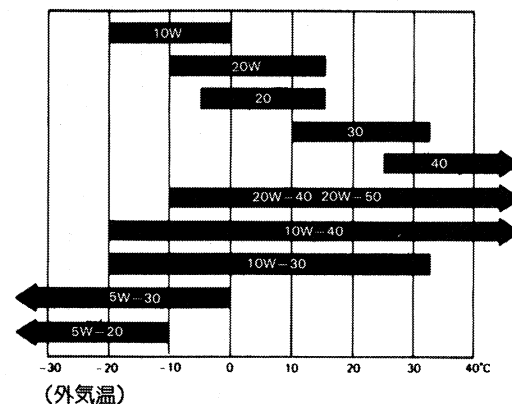
キャップを回して取り外し、油量表で確かめながら上限まで補給します。

補給後、キャップは確実に締め付けます。

補給がすんだらエンジンをかけ、1分間アイドリングした後、エンジンを停止し、再度、油量表で確かめます。

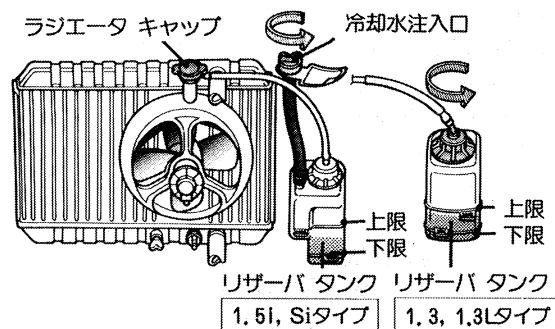
推奨オイル：

ホンダ純正オイル ウルトラ-U（4サイクル四輪車用、API SE級）・ホンダ純正オイル ウルトラGX（4サイクル四輪車用、API SF級）10W-30またはAPI SE級以上のエンジン オイルで気温に応じた粘度のものを、下表にもとづきご使用ください。



- 作業は平坦な場所で行ってください。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。
- 補給するときは、キャップ部からゴミなどが入らないようにしてください。
- オイルの量は上限を超えないようにしてください。
- オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。

冷却水の補給



リザーバ タンクのキャップを外し、タンクの上限(MAX)まで補給します。

指定液の濃度を50%にしてご使用ください。

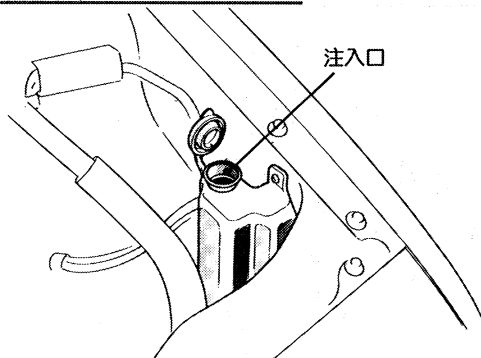
指定液：ホンダ純正ウルトラ ラジエータ液
液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますがエンジン温度に関係なく上限(MAX)まで補給します。
リザーバ タンクに冷却水がないときはラジエータにも補給します。ラジエータ キャップを回して外し、ラジエータの口元まで冷却水を補給します。

- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- ラジエータ原液を規定濃度に薄めるときは水道水(軟水)を使用してください。
- 指定以外のラジエータ液や不適当な水を使用すると、錆などの原因となります。
- 冷却水の減り具合が著しいときは、水漏れが考えられます。必ず整備を受けてください。

水温が高いときキャップを外すと、冷却水には圧力がかかっていますので蒸気や熱湯がふき出し危険です。水温が下がってから、布切れなどでキャップを包み、静かに開けてください。

注意

ウォッシュ液の補給



ボンネットを開け、ウォッシュ タンクにウォッシュ液を入れて水でうすめます。

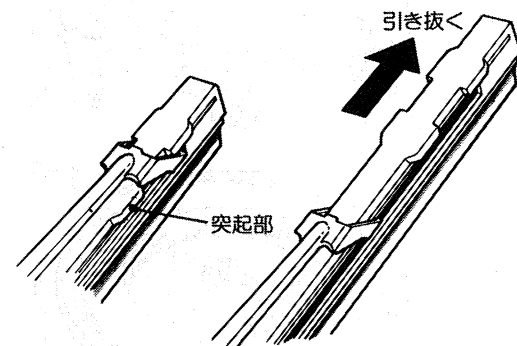
前部ワイパと後部ワイパ●のウォッシュ タンクは兼用しています。

- “ホンダ ウォッシュ液”には凍結防止剤が入っていますので気温に合わせた濃度でお使いください。ウォッシュ液の濃度の使いわけおよび注意事項はウォッシュ液の容器に記載してあります。粗悪品や不凍液を使用すると塗装面などに害をあたえます。

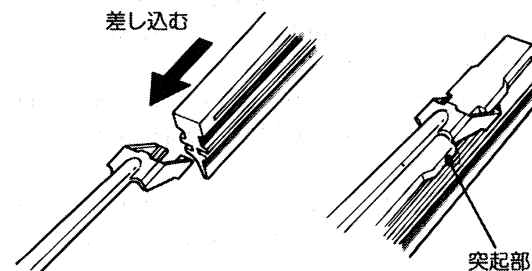
ワイパ ブレード ラバーの交換

ラバーが傷んでいると、ふきむらがあるばかりでなくウインド ガラスを傷付けることがありますので、早めに交換してください。

1. ワイパ アームを起し、ブレードの突起部が外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜きます。



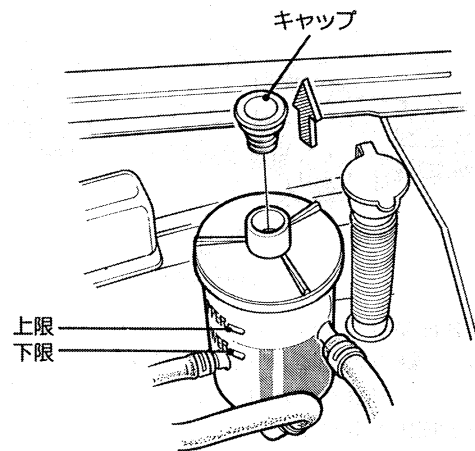
2. 突起部と反対側からラバーをブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れます。



- ブレード ラバーを取り外したとき、アームを倒すとガラスに傷をつけることがあります。

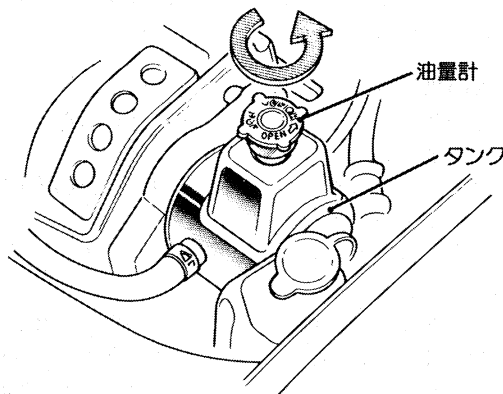
パワー ステアリングの点検 ●

Siタイプ



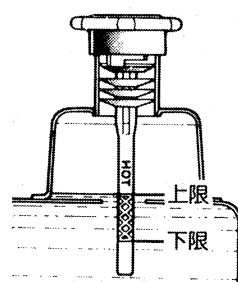
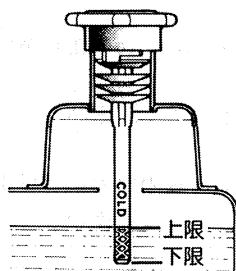
目盛りの上限と下限の間にあることを点検します。
下限近くになっていたらキャップを外して上限まで
補給します。

Siを除くタイプ



〈エンジン始動前〉

〈エンジン暖機後〉



目盛りの上限と下限の間にあることを点検します。
液が冷えているときは「COLD」側の、暖まっている
ときは「HOT」側の目盛りを調べます。

下限近くになっていたら上限まで補給します。

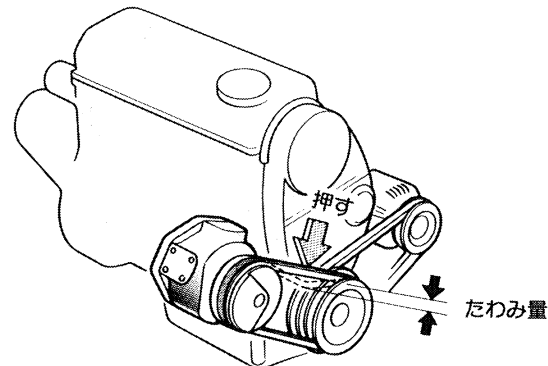
指定液：ホンダ純正パワー ステアリング フルード

●急激に減っているときはパワーステアリング系統
の異常が考えられます。

点検を受けてください。

エアコンの手入れ ●

●ベルトの点検

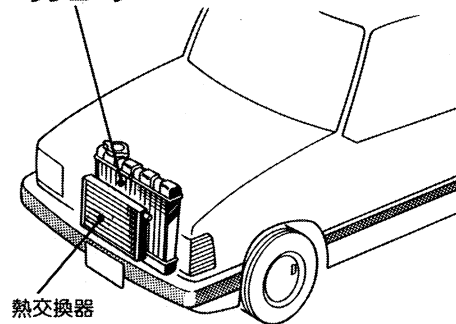


ベルトの中央部を指で強く押して(10kgの荷重)、た
わみ量を点検します。

このときベルトに傷がないかも調べます。ベルトの
たわみ量は 7 ~ 9 mmが適正です。

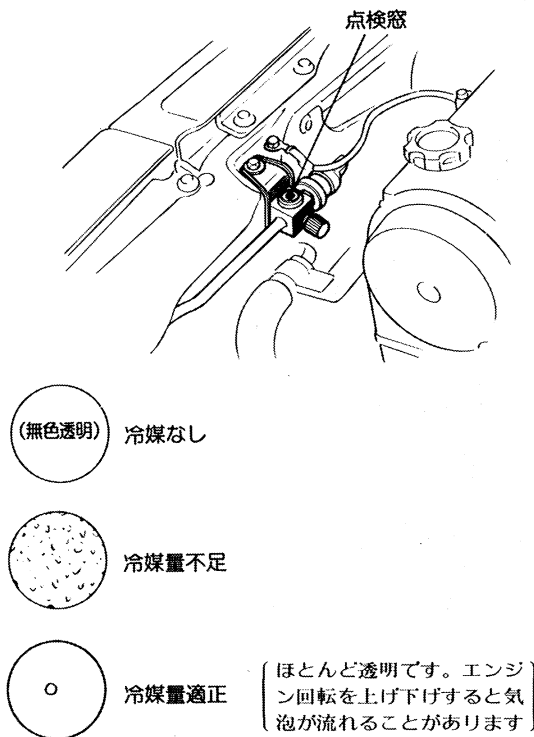
●熱交換器の清掃

ラジエータ



洗車の際は、熱交換器(ラジエータの前に取り付けら
れている)に付着している泥やゴミ、虫等、水を強
くかけて洗い落とし、通気性をよくします。

●冷媒(ガス)量の点検



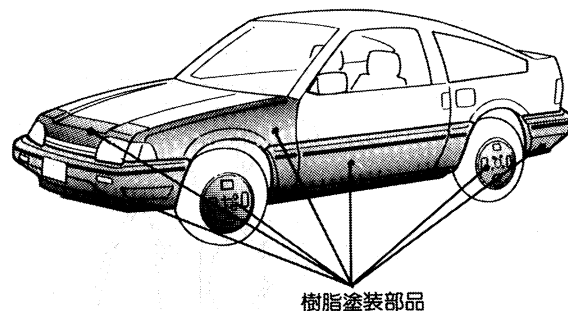
冷媒(ガス)が不足していると冷房性能が低下します。エンジン回転を1,500回転くらいに上げて2～3分間冷房した後、点検窓で点検します。冷媒(ガス)量が不足している場合は点検、補充を受けてください。

塗装の手入れ

●お車を美しく保つために

1. 走行後は塗装面に付着したほこりを、毛ばたきなどではらい落としましょう。
2. 次の場合は必ず洗車してください。
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
 - 海岸地帯を走行したとき。
 以上のときは車体の下廻り、フェンダの内側を特に念入りに洗ってください。
 - コールトール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついた場合。
 化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とし、必要に応じてポリッシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。ポリッシングワックスは次のホンダ純正品をお使いください。
 “ホンダ純正カーワックス Soft 汚れ落し剤”
3. 少なくとも月に一度は洗車してください。
4. とび石などによる塗装の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
5. 保管・駐車は風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。

＜樹脂塗装部品の手入れ＞



樹脂塗装部品(バンパ、フロントフェンダ、ホイールカバー ● など)にガソリン、オイル、ラジエータ液、バッテリー液などが付着すると、しみや塗膜がはがれる原因となります。

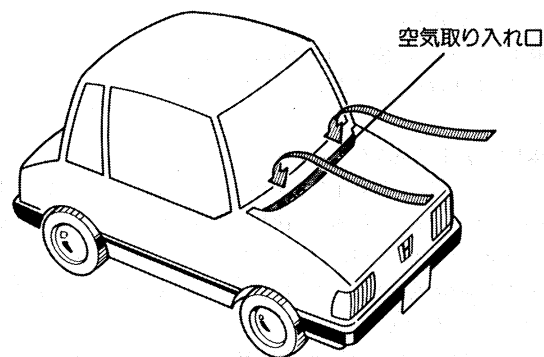
すみやかに柔らかい布でふき取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダ販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使用すると塗膜を傷めます。

●洗車のしかた

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗います。
 2. よごれがひどい箇所は中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
 3. 水が、かわかないうちに拭き取ります。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシの傷がつき光沢が失なわれたり、劣化を早めることがあります。特にホイール カバー装着車●は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使用しないでください。十分水をかけスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗ってください。
- 故意に空気取り入れ口やエンジン ルーム内の電気部品に水をかけないでください。
- ボンネットの裏にインシュレータが貼ってあるものは、直接インシュレータに水をかけて洗わないでください。



●ワックスがけのしかた

- 月に1回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。
- 車体表面に水の残っていないことを確認し、日陰または車体表面が体温以下になっているとき行います。
- ワックスは次のホンダ純正品をお使いください。
- “ホンダ純正カー ワックス Soft つや出し剤”
 - “ホンダ純正カー ワックス Soft 汚れ落とし剤”
- みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使用しないでください。
- 塗装面に細かい傷が残ることがあります。

内装の手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてご使用ください。

洗浄後、残った洗剤分は、真水を含ませた柔かい布でよく落としてください。

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリン等の有機溶剤は、変色、しみなどの原因となるので使用しないでください。

冬期の整備

●エンジン オイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。

冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

●冷却水について

不凍液と冷却水の混合比(濃度)を点検してください。

冷却水の補給 ●70ページ

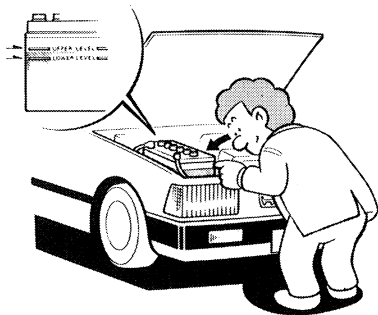
●ウォッシュ液について

ウォッシュ液の凍結を防ぐために、ウォッシュ液の濃度をあげてください。

ウォッシュ液の補給 ●70ページ

●バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や充電をしてください。



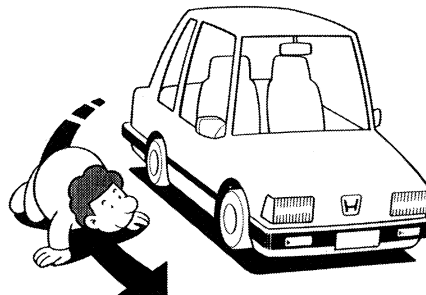
積雪・寒冷時の取り扱い

北海道全域、東北や北陸の積雪地域および山岳地やスキー場等の局地的な厳寒・多雪地域が対象となりますが、その他の地域においても冬期の取扱いの参考としてください。

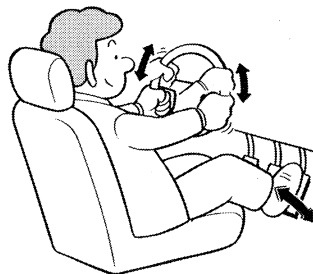
●走行前の点検について

「運転前点検」の際に下記の点検も行ってください。

1. 車の下回りをのぞき、足まわり等に氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除き除いてください。

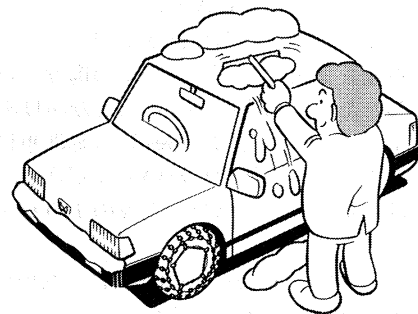


2. ペダル類やステアリングの動きが円滑かどうか確認してください。



●車の積雪について

屋根に積った雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。



●ドアの凍結について

ドアが凍結したとき、無理に開けるとドアまらりのゴムがはがれたりするので、湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

ドアまらりの水分は、凍結防止のためによく拭き取ってください。

- ドア キー穴部には、凍結する恐れがあるので、湯をかけないでください。

●ワイパについて

ワイパ ブレード(ゴム部)がガラス面に張りついた状態やガラス面に着氷、積雪した状態で、ワイパを動かすとワイパ ブレードを損傷したり、ワイパ モータの故障の原因となります。必ず取り除いてから動かしてください。

ワイパ/ウォッシュ液噴射スイッチ ●14ページ

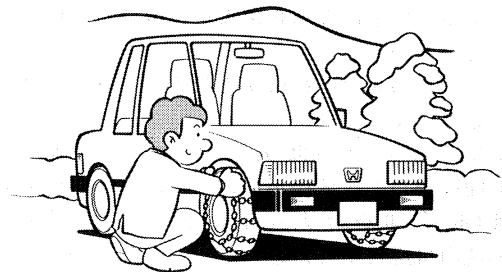
●タイヤ チェン、スノータイヤについて

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェンまたはスノータイヤを装着してください。

スノータイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。

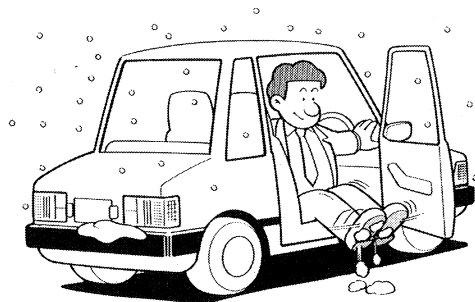
タイヤ チェン ●43ページ

●但し、地区条例により、違いがありますのでその地区の公安委員会が指定する条例に従ってください。



●乗車について

靴にこびりついた雪は、乗車時よく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。



●滑りやすい路面について

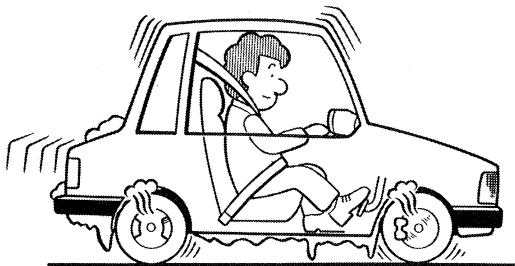
雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。横滑りして方向性を失い危険です。



●ブレーキについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキのききが悪くなることがあります。その際には、前後の車に充分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

●万一、ブレーキのききが回復しないときは、ただちに点検を受けてください。



●雪の付着について

雪道走行時、フエンダ裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきりが悪くなることがあります。

ときどき異常のないことを確認してください。



●パンクについて

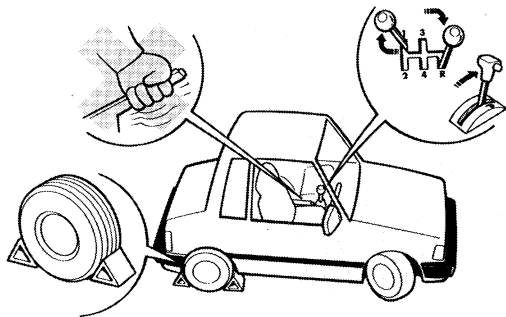
タイヤ チェン装着時、前輪がパンクした場合は、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取付け、これにタイヤ チェンを装着してください。

応急用スペアタイヤにはタイヤ チェンが装着できません。



●駐車ブレーキについて

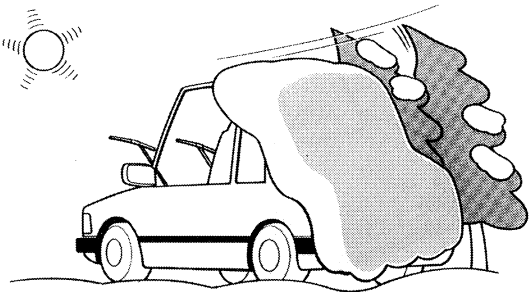
駐車するときは駐車ブレーキ装置の凍結を防ぐため、駐車ブレーキを使用しないでください。手動変速機車はギヤを®(後退)か1速に、ホンダマチック3AT/4AT車は[P]に入れ、輪止めをしてください。



●駐車方法について

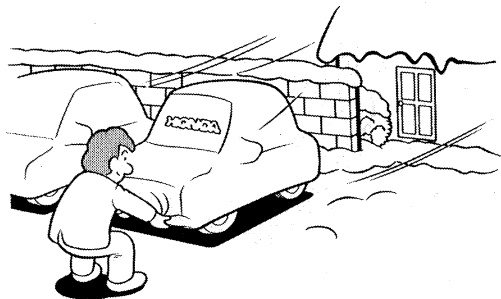
屋外に駐車するときは、エンジンの冷えすぎを防ぐために車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。

またワイパアームは起してください。雪の重みでアーム取付部がこわれることがあります。



●格納について

長時間使用しないで屋外に放置しておくときは塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使用してください。



エンジン部を毛布で覆ったり、走行時にフロントグリル内側に段ボールや、新聞紙をはさみ込んだりしないでください。これがもとで燃えだす危険があります。

アルミ ホイールの取扱い

アルミ ホイール装着車

アルミ ホイールは一般的なスチール ホイールと取扱い方が異なります。アルミ ホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

手入れ

- アルミ ホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水及び道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落してください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミ ホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使用しないでください。高速洗車機(ホイール専用ブラシ付のモノ)によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

取扱い

- アルミ ホイールは傷つき易いので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを、避けてください。
- バンク修理時など、タイヤ レバーを使用するとホイールに傷をつけますので、バンク修理などはタイヤ修理店で行なってください。
- バランス ウェイト及びバルブはホンダ純正のアルミ ホイール専用品をご使用ください。
- アルミ ホイールにタイヤ チェンを装着するときは正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつける恐れがありますので注意して装着してください。

注意

- ホイール ナット及びハブのネジ部には、絶対に油をつけないでください。油がついてしまうとゆるみの原因となります。
- バンク修理等でホイールを取り付け直した際には、1,000km走行時にホイール ナットのゆるみの有無を点検してください。
- インパクト レンチによる締付けは避けてください。

170
The first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the

the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the

the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the

the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the
the first of these is the fact that the

サービス データ

項 目		サ ー ビ ス デ ー タ	
		Siタイプ	Siを除くタイプ
点 火 プ ラ グ	タ イ プ	NGK BCPR5EY-11 BCPR5EY-N11 Q16PR-U11 <u>BCPR6EY-11</u> BCPR6EY-N11 <u>Q20PR-U11</u> BCPR7EY-11 BCPR7EY-N11 Q22PR-U11 □内は標準装備。	NGK <u>BU5EB-11</u> ※BUR5EB-11 <u>W16EK-S11</u> ※W16EKR-S11 BU6EB-11 ※BUR6EB-11 W20EK-S11 ※W20EKR-S11 <u>BU7EB-11</u> ※BUR7EB-11 <u>W22EK-S11</u> ※W22EKR-S11 □内は1.3、1.3Lタイプに標準装備。○内は1.5iタイプに標準装備。 FMラジオ装着車の点火プラグは※(抵抗プラグ)をご使用ください。
	電極のすき間(mm)	1.0～1.1	
発 電 機 ベ ル ト	た わ み 量(mm)	7～10(10kgの荷重)	
パ ワ ー ス テ ア リ ン グ ベ ル ト	た わ み 量(mm)	18～22(10kgの荷重)	
エ ア コ ン ベ ル ト	た わ み 量(mm)	7～9(10kgの荷重)	
ブ レ ー キ ペ ダ ル	遊 び(mm)	1～5	
	床板とのすき間(mm)	100以上(踏力20kg)	
ク ラ ッ チ ペ ダ ル	遊 び(mm)	16～21	
	床板とのすき間(mm)	56以上(クラッチが切れたとき)	
駐 車 ブ レ ー キ レ バ ー	引 き し ろ	4～8ノッチ(操作力20kg)	
ウ ォ ッ シ ャ タ ン ク	容 量(ℓ)	2.2	
バ ッ テ リ	容 量(AH)	1.3、1.3Lタイプ：30、33または47：寒冷地用 1.5i、Siタイプ：35、33または47：寒冷地用	
電 球 (バ ル ブ)	W (ワ ッ ト) 数	前面方向指示灯／前面非常点滅灯—12V—21W 車幅灯／前面駐車灯—12V—5W 側面方向指示灯／側面非常点滅灯—12V—5W 番号灯—12V—8W 後面方向指示灯／後面非常点滅灯—12V—21W	制動灯／尾灯・後面駐車灯—12V—27/5W 後退灯—12V—21W 室内灯—12V—5W 後部ドア—12V—3.4W

項 目		サ ー ビ ス デ ー タ	
燃 料	使 用 燃 料	無鉛ガソリン	
	タンク容量(ℓ)	41	
エ ン ジ ン オ イ ル	交 換 時 期	10,000kmごとまたは6ヶ月ごとのどちらか早い方	
	推 奨 オ イ ル	ホンダ純正オイル ウルトラ-U(4サイクル四輪車用、API SE級)またはホンダ純正オイル ウルトラGX(4サイクル四輪車用、API SE級)	
	規 定 量(ℓ)	3.0(オイル交換時)、3.5(オイル、オイル フィルタ同時交換時)	
エンジン オイル フィルタ	交 換 時 期	20,000kmごと	
変 速 機 オ イ ル	交 換 時 期	40,000kmごと	
	推 奨 オ イ ル	手 動 変 速 機	ホンダ純正オイル ウルトラ-U(4サイクル四輪車用、API SE級)またはホンダ純正オイル ウルトラMTF
		ホンダマチック 3AT/4AT	ホンダ純正AFT
	規 定 量(ℓ)	手 動 変 速 機	2.3 2.4 (交換時) 内はSiタイプ
		ホンダマチック 3AT/4AT	2.4 (交換時)
冷 却 水	推 奨 交 換 時 期	2 年ごと	
	指 定 液	ホンダ純正ウルトラ ラジエータ液	
	規 定 濃 度	50%	
	規 定 量(ℓ)	1.3 1.3Lタイプ 手動変速機 1.5iタイプ ホンダマチック3AT Siタイプ	3.4 3.9 (交換時リザーバ タンク0.4ℓ含む) 4.5 4.6
ブ レ ー キ 液	指 定 液	ホンダ純正ブレーキ フルード DOT3	
エア クリーナろ紙部(エレメント)	推 奨 交 換 時 期	2 年ごと	
パワ ー ステアリング液	指 定 液	ホンダ純正パワ ー ステアリング フルード	

タイプ		1.3	1.3L	1.5i 手動変速機車	1.5i ホンダマチック 4AT車	Si
項目	標準 タイヤ	165/70SR13 (高圧タイヤ)	155SR13 165/70SR13	175/70SR13 185/60R14 82H	165/70SR13 175/70SR13 185/60R14 82H	175/70SR13 185/60R14 82H
	応急用 スペア タイヤ	T105/80D13	T105/80D13	T105/80D13	T105/80D13	T105/80D13

タイヤ仕様、サイズ			標準 タ イ ヤ					応急用スペア タイヤ
項 目			155SR13	165/70SR13 (高圧タイヤ)	165/70SR13	175/70SR13	185/60R14 82H	T105/80D13
タイヤ空気圧 (空車時: kg/cm²)	前 輪	一 般	1.8	2.5	1.8	1.7	2.0	4.2
		高 速	1.8	2.5	1.8	1.7	2.0	4.2
	後 輪	一 般	1.8	2.2	1.8	1.7	2.0	4.2
		高 速	1.8	2.2	1.8	1.7	2.0	4.2
リム サイズ	スチール ホイール		4½-J×13	4 ½-J×13	4 ½-J×13	5-J×13 5.00B×13	5-J×14	4-T×13
	アルミ ホイール		5-J×13	5-J×13	5-J×13	5-J×13	5-J×14	
タ イ ヤ の 残 溝 の 深 さ (mm)			1.6以上					
位置交換時期(タイヤ ローテーション)			5,000kmごと					

乗 車 定 員 (名)	4
-------------	---

主要装備一覧

○……標準装備（表の中の☐は同じタイプでも、装備されるものとされないものがあることを示しています。）

●……注文装備

タイプ		パワー ステアリング	ホイール カバー	間欠ワイパ “INT”	後部ワイパ	両側クッ ション調節 （サイドサポ ート）	化粧鏡 （パニティ ミラー）	防眩式 室内後写鏡	時計	センタ コンソ ール	後部ドア 解錠レバ ー	サンルーフ	燃料補給 口解錠キー	燃料補給 口解錠レバ ー（フュー エルリッド オープン）	エアコン	タイヤ				
																155SR13	165/70SR13 （高圧タイヤ）	165/70SR13	175/70SR13	185/60R14 82H
1300	1.3												○		●		○			
	1.3L	○					○	○	○			○	○		●	○				
1500	1.5i	○	○	○	○			○	○	○	○	○		○	●			○	○	
1600	Si	○		○	○	○		○	○	○	○	○		○	●					○

上記の装備品は、本文中に☐マークをつけて解説してあります。

索

引

ア

アルミ ホイール	76
アンテナ	22

ウ

ウオツシャ	
ウオツシャ液	70
ウオツシャ液噴射スイッチ	15

エ

エア クリーナ	68
エアコン	37, 38, 71
エンジン	
エンジン スイッチ	13
エンジンのかけ方	31

オ

オイル	
エンジン オイル	51, 60, 69
エンジン オイル フィルタ	80
トランス ミッション オイル	80
応急用スペア タイヤ	64
オーバヒート	44

カ

ガソリン	〈燃料〉参照
------	--------

キ

切り換えレバー	33, 34
---------	--------

ク

クラッチ	59
グローブ ボックス	24

ケ

計器	10
警告灯	11
経済走行	7
けん引	42

コ

工具	63
後写鏡	21, 48
後部ドア(テール ゲート)	25
後面ガラス曇り取りスイッチ	16
故障、修理	41

サ

サン バイザ	20
サン ルーフ	26

シ

シート	
前席	17
後席	18
シート ベルト	19
シガレット ライタ	23
シフト レバー(変速レバー)	33
ジャッキ	63
照明灯	
後部ドア	26
室内	25

ス

水温計	10
スパーク プラグ	79
スピード メータ(速度計)	10
スペア タイヤ	64

セ

積算距離計	10
洗車	73
前照灯	
スイッチ	13
ワイパ/ウオツシャ液噴射スイッチ	14

タ

タイヤ	
スペア タイヤ	64
交換	65
タイヤ チェン	43

チ

駐車灯スイッチ	16
駐車ブレーキ	31, 46, 57
チェン	43
チェンジ レバー	33, 34

テ

テール ゲート	25
点火プラグ	79
点検、整備	
運行前点検	47
6か月点検	55
簡単な整備	63
電球の交換	45
電子制御燃料噴射装置(PGM-FI)	6, 11

ト

ドア	
解錠, 施錠	24
時計	21
トリップ メータ	10

ネ

燃料	
使用燃料	6
燃料計	10
燃料タンク容量	80
補給口	28

ハ

灰皿	23
ハザード スイッチ	16
発炎筒	42
発電機ベルト(ファン ベルト)	51, 60
バッテリー	44, 59, 67
パワー ステアリング	5, 56, 71

ヒ

ヒータ	37, 38
非常点滅灯スイッチ	16
ヒューズ	68

フ

ファン ベルト(発電機ベルト)	51, 60
プラグ	79
ブレーキ	49, 56, 57
ブレーキ液	57, 66

ヘ

ヘッド ライト	〈前照灯〉参照
ヘッド レスト	18

ホ

方向指示器スイッチ	14
ホンダマチック 3AT	33, 35
ホンダマチック 4AT	34, 36
ボンネット	28

メ

メータ	10
-----	----

ラ

ライト スイッチ	〈前照灯〉参照
ラジエータ(冷却装置)	51
ラジオ	22

レ

冷却水	51, 60, 70, 74
冷却装置(ラジエータ)	51

ワ

ワイバ	
スイッチ	14
積雪・寒冷時の取り扱い	74
ブレード ラバー	70
ワックス掛け	73



30SB2641
00X30-SB2-6410

ホサ ©20008612H